

資料紹介

井上哲次郎「巽軒日記―大正五年 上半期―」

村上 こずえ
森本 祥子

翻刻にあたって

明治期から昭和戦前期にかけて哲学者として活躍した、井上哲次郎（一八五五―一九四四年）の日記『巽軒日記』の大正五年一月から六月について引続き紹介したい。なお、凡例については第三号で述べていることから割愛する。

この年の二月九日、加藤弘之（法理文三学部総理および第二代帝国大学総長を務めた）の訃報が届く。翌十日には「此日大学特に休業す、加藤博士死去の為なり」という記述が、十二日には告別式において哲学会を代表して弔辞を読んだことが記されている。この弔辞は加藤弘之関係資料の中に見ることができ（「弔詞〔加藤弘之葬儀〕」F0001/S09/0024）

巽軒日記

大正五年（西暦一九一六）「丙辰」上半期

一月

一日、午前、雨天、宮中拝賀、畢りて高縄東宮御所に赴く、○

森林太郎、横山又次郎、徳川頼倫、黒田長成、田中芳男、島田三郎等と宮中に会见す、○賀状封書一三五、葉書五六一、合計六九六来る、○午后、賀状封書五、葉書二四、来る、○来賀者八拾六名、○岡野義三郎より菓子壱箱を送来る、○夜、賀状封書四、葉書四四来る、○旧冬中封書三、葉書一来る、故に一日の分と合算すれば、総計封書壱四七、葉書六三〇、之に来賀者八六を加ふれば、合計八・六三、○家族年齢如左、主人……………六二（安政二 一二 二五 生）
縫子……………五六（文久一 一五 一二 生）
雪子……………三五（明治一五 六 一一 生）
清子……………二五（明治二五 九 二九 生）
宣光……………二二（明治二八 二 八 生）
春枝……………一九（明治三一 二 一二 生）
正勝……………一七（明治三三 八 二四 生）
益之進……………一三（明治三七 九 二 生）
高子……………一一（明治三九 一一 二一 生）

二日、午前、曇天、賀状封書二一、葉書六七来る、○甫守謹吾より襟飾二を送来る、○「戦後の教育方針如何」帝國教育に出づ、○年始状を認む、○賀状封書六、葉書二三来る、○午后、年始状を認む、○来賀者参拾九名、○賀状封書六三、葉書二五、来る、○吉田絃二郎の「副牧師」を読む、○夜、松信定雄より賀状来る、○「永遠之戦」を読む、○此日、賀状総数一四六、来賀者三九、合計一八五、

三日、午前、曇天、賀状封書一〇、葉書五四来る、○浦谷熊吉、大野太衛、林勃爾来賀す、○賀状葉書二五来る、○午后、小林文七宅に赴き、光琳の画を観る、益之進亦来る、平山成信及び和田萬吉と会見す、○帰途和田垣謙三と遭遇す、○賀状封書四、葉書一六来る、○来賀者式拾名、○文明協会より「學術講演録」を送来る、○「訳語訳文の統一」「學術講演録」に出づ、○稲葉隆生より来状、○夜、花見喜代次、「シヤツ入り」を携来る、○「尺五全集」を読む、○賀状封書五、葉書八来る、○此日、廣池千九郎、「伊勢神宮と我国体」を携える、

四日、午前、晴天、賀状封書七、葉書二〇来る、○年始の御礼に三宅秀、全鑑一、菊池大麓、伊澤修二、久保田讓、濱尾新に赴く、○賀状封書二、葉書一一来る、○浅倉屋より海苔を送来る、○来賀者三名、○午后、子爵金子堅太郎妻弥壽子の葬式に青山斎場に赴く、○年始の御礼に黒田侯爵邸に赴く、○賀状封書一、葉書七来る、○来賀者五名、○年始状を認む、○年始状を Hoffmann, Dahmann, Coates, Benf, Heck に送

る、○夜、勇雄熱あり、渡邊真来診す、○賀状封書六、葉書七来る、○旅行中の吉田熊次夫妻より来状、○夜半、強風、五日、午前、晴天、有風、書状を飯田義一、蠣瀬彦藏、常盤大定、岡野義三郎に送る、○賀状封書三、葉書二来る、○「永遠之戦」を読む、○新年宴会に宮中に赴く、○賀状封書一、葉書八来る、○金子武磨より礼状来る、○松井等来賀す、○午后、「永遠之戦」及び「周公と其時代」を読む、○賀状封書一、葉書七来る、○「古事記伝」を読む、○夜、「古事記伝」を読む、○帝国学士院より来状、○賀状葉書三来る、

六日、午前、晴天、賀状封書三、葉書一〇来る、○「古事記伝」を読む、○「師範修身」二百部の奥附を晩成処に送る、○書状を林泰輔に送る、○珍書同好会より「樺月楼集」を送来る、○午后、林泰輔来る、○齋藤甲花及び中尾教審より来状、○「左伝」を檢閲す、○「古事記伝」を読む、○御殿場別荘の番人より野菜を送来る、○「古事記伝」を読了る、○「周公と其時代」を読む、○賀状封書一、葉書三来る、

七日、午前、晴天、賀状封書一、葉書九来る、○富田純吉より菓子菴箱を送来る、○興学会より来状、○島本愛之助、亀井忠一來る、○島田三郎より菓子菴箱を送来る、○正勝を遣はして所得税を郵便局に納む、○平田盛胤来賀す、○丸善の使者来る、○午后、内ヶ崎京三郎来賀す、○書状を林泰輔及び帝国学士院に送る、○賀状封書一、葉書二来る、○運動に音羽方面に出づ、○夜、「周公と其時代」を読む、○賀状葉書二来る、○此日、小山正太郎逝く、享年五十九、

八日、午前、晴天、賀状葉書七来る、○斯文学会より来状、○島本愛之助より来状、○書状を島本愛之助及び山崎亀太郎に送る、○Hosea及びAmosの予言書を読む、○賀状葉書四来る、○成瀬仁藏より「大学教育法改善案」を送来る、○午后、Amosの予言を読了る、○市澤弥一來る、乃ち之に「社会と道徳」を付与す、○Plato, Symposiumを読む、○書状を斯文学会に送る、○林泰輔より来状、○上村觀光より賀状葉書来る、○夜、引続きPlato, Symposiumを読む、○「周公と其時代」を読む、

九日、午前、晴天、島本愛之助より来状、○賀状封書一、葉書五来る、○「平和か鉄血か」を送来る、○「日本の文明的立場」平和か鉄血かに出づ、○津野慶太郎、菓子壺箱を携来る、○「周公と其時代」を読む、○賀状封書一、葉書二来る、○午后、曇天、小野清秀より来状、○瀧精一來る、○勉強、○書状を市澤弥一に送る、○吉田熊次夫妻来る、○夜、吉田熊次夫妻と晚餐を共にす、○雨、○明石孫太郎より来状、

十日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○瀧精一より渡邊華山目黒詣画巻を送来る、○小野清秀より林檎壺籠を送来る、○松永昌三伝を検す、○賀状葉書六来る、○午后、岩橋遵成、宮坂詰宗及び桑木嚴翼妻来る、○友枝高彦より大鯰壺尾を送来る、○「周公と其時代」を読む、○夜、有風、○引続き「周公と其時代」を読む、○賀状葉書三来る、○「美しい歴史」青年団に出づ、○「先代旧事本紀」を読む、○文科大学より来状、十一日、午前、半晴、賀状葉書三来る、○螺山会より来状、○

書状を嘉納治五郎、岩橋遵成、林泰輔、田所美治、阿部維巖、松本文三郎、瀧精一及び螺山会に送る、○午后、快晴、礼状を友枝高彦及び小野清秀に送る、○「旧事紀」を読む、○鈴木俊行、菓子壺箱を携来る、○姉崎益子来る、○校正を百科大辞典完成会に送る、○夜、興学会に山上御殿に赴く、○島本愛之助及び森友藏より来状、○文学士久保川平三郎、全若槻道隆、東亜協会々員となる、○「旧事紀」及び「周公と其時代」を読む、○此日迄賀状封総計式百式拾五、葉書九百六拾壺、来る、来賀者総合計壺五拾参名、総計壺千参百参拾九、

十二日、午前、晴天、学習院に赴き、尋いで女学部に到る、○午后、教授会に山上御殿に赴く、○不在中宮島麗子来る、○山崎亀太郎、秋本雙一、金子博愛より来状、○市村瓚次郎より「支那論集」を受く、○金子博愛より論文一冊を送来る、○夜、帝国学士院に赴く、○賀状葉書二来る、○綱島佳吉より「排日問題と基督教徒」を送来る、○「旧事紀」を読む、十三日、午前、晴天、賀状葉書二来る、○勉強、○午后、講義に大学に赴く、○斯文学会常議員会に赴く、○書状を箕作元八、宮坂詰宗及び婦一協会に送る、○夜、「旧事紀」を読む、十四日、午前、晴天、「日本国民の理想」丁酉倫理に出づ、○島本愛之助、宮島麗子来る、○賀状葉書三来る、○Plato, Symposiumを読む、○日本経済叢書(第二十卷)を送来る、○「人格と修養」二百部の奥附を広文堂に付与す、○午后、武藤儀亮、藤田季莊来る、○「女子修身」六百部の奥附を金港堂に付与す、○Plato, Symposiumを読む、○夜、「旧事紀」

を読む、

十五日、午前、晴天、島本愛之助より来状、○「經典題說」「古文尚書總弁」及び「書經集伝」を読む、○吉田雪子、風邪に罹り、咽喉を患ふの報あり、縫子直に吉田宅に赴く、○押田すが子、微恙に嬰る、医学士明城弥三吉来診す、○電話使用料金一六、五〇〇を郵便局に納む、○午后、曇天、平川浩然、塩谷時敏の紹介によつて来る、有故不遇、○Plato, Symposiumを読む、○和辻哲郎、Kierkegaard, Stadien auf dem Lebenswegeを返来る、○書状を麻生正藏に送る、○「余の見たる哲学と科学」哲学雑誌に出づ、○吉田宅に赴く、○夜、箕作元八より来状、○武藤長平より論文八篇と書状とを送来る、○書状を箕作元八に送る、○七、二五押田清子、男児を産む、○The Asiatic Society of Japanより来状、○朝永三十郎より「近世に於ける我の自覚史」を送来る、○Plato, Symposiumを読む、○「旧事紀」を読む、

十六日、午前、晴天、大島正徳より「世界心国家心個人心」を送来る、○阿部東作、平川浩然、中野善門来る、○押田翼母、安子と共に清子を見舞に来る、○齋藤延より来状、○東敬治、田中義能来る、○甫守謹吾より来状、○古典攷究会より「日本神典宣義」を送来る、○午后、Plato, Phaedoを読む、○市澤弥一來る、○深作安文より来状、○Zeller, Die Philosophie der Griechenを読む、○夜、勉強、

十七日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○午后、有風、○神宮徳壽、梅津隼人来る、○縫子、吉田宅に赴く、○「旧事紀」

及び「周公と其時代」を読む、○書状を文科大学に送る、○弘道館より小学研究原稿料を送来る、○夜、「周公と其時代」及び「旧事紀」を読む、

十八日、午前、晴天、女中のぶを文部省に遣はす、○「旧事紀」を読む、○「本邦の国民性と教育上改善を要する諸点」及び「縁喜善き辰年」日本之小学教師に出づ、○午后、「神器考証」を読む、○「実業修身」二千二百部の奥附を六盟館に付与す、○「日本紀纂疏」を検す、○押田老母来る、○運動に音羽方面に出づ、○夜、田中義能、魚住惇吉、文科大学及び帝国教育会より来状、○夜、「万葉集略解」及び「周公と其時代」を読む、○此日、山方泰来る、○有故不遇、

十九日、午前、晴天、学習院に赴く、○入谷智定及び斯文学会より来状、○「旧事紀」及び「周公と其時代」を読む、○岩崎任利より来状、○午后、宮坂詰宗来る、○為換入の書状を宣光に送る、○押田翼妻来る、○帝国学士院より来状、○Jeremiaの予言書を読む、○夜、「耶利米亜記」及び「旧事紀」を読む、

二十日、午前、晴天、白井成允、大阪毎日新聞社、白木屋呉服店及びThe Asiatic Society of Japanより来状、○勉強、○帝国教育会より来状、○大正詩文第三集を送来る、○午后、講義に大学に赴く、○不在中浦谷熊吉来る、○月蝕、○「以賽亞書」を読む、○夜、「以賽亞書」及びPlato, Phaedoを読む、

廿一日、午前、晴天、日之出生命保険より来状、○書状を日之出生命保険に送る、○Plato, Phaedoを読む、○島本愛之助、

小川恂藏来る、○書状を大竹多氣及び魚住惇吉に送る、○押田三郎母を招待して清子出産七日の祝宴を開く、○午后、委員会に斯文学会に赴く、○帝国学士院より来状、○「以賽亞書」を読む、○夜、「以賽亞書」及び Plato, Phaedo 并に Zeller, Philosophie der Griechen を読む、○此日、民友社より「歐洲大戦」を送来る、

廿二日、午前、晴天、川田正激及び帝国学士院より来状、○川田正激より「白眼看世」を送来る、○渡辺幾知郎より来状、○帝国学士院の委員会に山上御殿に赴く、○三井銀行に赴く、○午后、印度哲学及宗教学会に大学に赴く、瀧精一の講演あり、○「陽明哲学」五拾部の奥附を富山房に付与す、○夜、Plato, Phaedo を読む、

廿三日、午前、晴天、書状を山崎亀太郎及び白井成允に送る、○坂谷芳郎より印刷物を送来る、○府税市税金二、五五五及び宅地租金七、五八五、合計金一〇、一四〇を郵便局に納む、○押田昇の出産届及び寄留届を区役所に出す、○ Plato, Phaedo を読む、○書状を阪谷芳郎及び川田正激に送る、○午后、撰氏二十度、有風、勉強、○辻本卯藏、宮坂喆宗来る、○勉強、○柏原文太郎妻、出産見舞の為に来る、○夜、婦一協会より来状、○勉強、

廿四日、午前、曇天、講義に大学に赴く、○得能文妻及び押田翼妻来る、○大学史料編纂掛の使者来る、乃ち之に「益軒叢書」三冊及び「燕台風雅」十冊を付与す、○「列聖全集」(第八回)を送来る、○午后、雨天、中西牛郎、菓子壺箱を携来

る、○ Transactions of the Asiatic Society of Japan 二冊を送来る、○「以賽亞書」及び「旧事紀」を読む、○夜、「旧事紀」及び王充が「論衡」を読む、○竹本長吉来る、○文科大学及び九鬼隆一より来状、

二十五日、午前、晴天、阿部維巖、石橋五郎及び丸善洋書店より来状、○「旧事紀」及び「神道哲学之発達」を読む、○六盟館店員来る、○午后、会費金五円を Asiatic Society of Japan 当に三菱銀行に送る、○「神道哲学之発達」及び「天照大御神に関する神学的研究」を読む、○姉崎老母、押田安子来る、○小石川区役所より使者来る、○書状を浦谷熊吉及び小石川区役所に送る、○橘惠勝より葡萄酒壺箱を送来る、○「教界春秋」を草す、○夜、「教界春秋」を草す、○「教界春秋」を日清印刷に送る、

廿六日、午前、晴天、大竹多氣、白井成允、及び橘惠勝より来状、○学習院に赴き、尋いで又女学部に到る、○午后、曹洞宗大学林に駒沢に赴き、「人生と宗教」を演説す、聴衆約三百人、○不在中蓮沼門三、大橋秀治来る、○松本文三郎、征矢野晃雄より来状、○市澤弥一、長谷川福平来る、○黒田眞洞の計報来る、○「嫁の修養と姑の修養」淑女画報に出づ、○梅津隼人、「崎門文献録」(五之六)を携来る、○夜、日清印刷より「東亜の光」口絵を送来る、○「東亜の光」口絵解題を日清印刷に、書状を魚住惇吉、竹内康二及び橘惠勝に送る、○此日、中島徳藏妻来る、○「日本国粹全書」第九輯を送来る、

廿七日、午前、晴天、神田城太郎より来状、○佐々木忠次郎父の計報来る、○宣光より縫子に來状、○森良三郎来る、○補永茂助の論文を読む、○山崎龜太郎より来状、○竹内康二来る、乃ち之に書籍壺冊を付与す、○縫子、金拾貳円を宣光に送る、○午后、講義に大学に赴く、○不在中姉崎袖子、全益子、齋藤基次郎妻来る、○「解題叢書」を送来る、○常盤大定来る、○夜、「以賽亞書」を読む、○多木悦造より林檎入の大箱を送来る、

廿八日、午前、晴天、島本愛之助、大橋秀治、上原才一郎来る、○齋藤儀八より小包を送来る、○上智大学の Jos. Dahmann より來状、○ Plato, Phaedo を読む、○午后、櫛引成夫来る、○市澤弥一來る、乃ち之に原稿を付与す、○東京堂より「大鏡詳解」を送来る、○重田定一より貸付書籍三冊と共に「岡田寒泉伝」を送来る、○「社会と道德」を上田萬年及び芳賀矢一に送る、○「大鏡詳解」を宣光に送る、○書状を重田定一、多木悦造及び山崎龜太郎に送る、○夜、宮坂喆宗、御礼の為に來る、○島本愛之助、三谷研幾、荒木理三郎及び帝国学士院より來状、○書状を帝国学士院及び佐々木忠次郎に送る、○ Plato, Phaedo を読む、○「東亜の光」を読む、

廿九日、午前、晴天、Plato, Phaedo を読む、○片山清太郎来る、○午后、哲学会に山上御殿に赴く、○不在中吉田雪子来る、○在英国矢吹慶輝、宇井伯壽より賀状来る、○益之進、風邪を患ふ、○書状を小藤文次郎に送る、○夜、Plato, Phaedo を読む、○生田鹿之丞より來状、○此日、林檎壺箱を田邊春

枝に送る、

三十日、午前、晴天、書状を岩田僊太郎及び上原才一郎に送る、○石橋臥波来る、○勉強、○書状を丸善洋書店に送る、○石越図書館より來状、○宮崎光子死去の報あり、○午后、深作安文、島本愛之助来る、乃ち幹部会を開く、○「日本大藏経」を送来る、○ Zeller, Die Philosophie der Philosophie を読む、○夜、引続き、Zeller を読む、○勉強、○此日、文明協会より「欧洲大戰の経験」を送来る、○魚住惇吉より來状、

卅一日、午前、晴天、光岡安藝及び岩田僊太郎宅等より來状、○講義に大学に赴く、○在米国押田三郎より來状、○ Benoy Kumar Sarkar からの The Beginning of Hindu Culture as World=Power を送来る、○「神道的國家主義」向上に出る、○午后、委員会に帝国学士院に赴く、○不在中六盟館員及び岩井勇藏来る、○在米国久保良英より來状、○丸善より Shelley, Works を送来る、○尾上八郎より椎茸壺籠を送来る、○岩井勇藏来る、○補永茂助の論文を読む、○在米国服部宇之吉及び渡邊誠吾より來状、○書状を上原才一郎に送る、○夜、補永茂助の論文を読む、○此頃、ゲーテ詩集壺冊と Shelley の詩集を宣光に送る、

二月

一日、午前、曇天、補永茂助の論文を読了る、○「東亜の光」(十一の二)成る、○森良三郎及び六盟館員名来る、○林檎壺籠を田邊春枝に送る、○「伊勢神宮と我國体」を読む、○中野林藏、裏崖下第三号に移来る、○午后、竹本長吉、鈴

木弘、藤井健治郎、島本愛之助、高楠順次郎来る、○夜、文科大学より来状、○田中義能の論文を読む、

二日、午前、晴天、学習院に赴き、尋いで女学部に来る、○蓮沼門三来る、○細見保より来状、○午后、田中義能の論文を読む、○「神道独語」を読む、○光風館より使者来る、○夜、

Harald Höfding より来状、○書状を村澤喜代人及び尾上八郎に送る、○「神道独語」を読む、○Zeller, Die Philosophie der Griechen を読む、○此日、医学博士三浦守治逝く、享年六十、○羅馬法王使節 Cardinal Giuseppe Petrelli 来朝す、

三日、午前、快晴、多木悦造より来状、○研究、○Sir John Lubbock, The Origin of Civilization を読む、○遠藤隆吉より来状、○三浦守治の訃報来る、○午后、講義に大学に赴く、○宮内省より招待状と大礼記念章とを送来る、○Zeller, Die Philosophie der Griechen を読む、○夜、引続き Zeller を読む、四日、午前、晴天、村澤喜代人、鈴木弘、武藤儀亮来る、○縫子、吉田熊次宅に赴く、○Zeller, Die Philosophie der Griechen を読む、○午后、「創世記」を読む、○三浦守治の葬式に谷中に赴く、田代義徳、和田垣謙三等と会見す、○岩橋遵成及び中等教科書協会より来状、○珍書同好会より「古今和歌集註」及び「禅月楼集」を送来る、○有風、○夜、「創世記」を読む、○此日、島本愛之助来る、

五日、午前、晴天、森良三郎、土田誠一来る、○Zeller, Die Philosophie der Griechen を読む、○三浦元春より来状、○巢鴨宮仲に二戸新築の事を決定す、○書状を九鬼隆一に送る、

○午后、大学に赴き、日高海軍中佐の歐洲海戦に関する講話を聴く、○夜、日本学会に山上御殿に赴く、辻善之助、水野鍊太郎の講演あり、○文学士久保義雄、高田眞雄、東亜協会々員となる、○大野太衛、帝国学士院、日之出生命、京華校友会より来状、○微雨、

六日、午前、雨天、小林文七来る、○「創世記」を読む、○吉田雪子来る、○修養団より招待状来る、○午后、「創世記」を読む、○Zeller, Die Philosophie der Griechen を読む、○夜、東亜協会評議員会に山上御殿に赴く、○此日、Basil Hall Chamberlain, The Kojiki or Record of Ancient Matters を送来る、

七日、午前、雪、講義に大学に赴く、○小林文七及び松村介石より来状、○「哲学と宗教」壱百部の奥附を弘道館に付与す、○午后、伊藤秀吉及び九鬼周造来る、○「創世記」を読む、○「旧事紀」を読む、○夜、「旧事紀」を読む、○書状を帝国学士院に送る、○文科大学より来状、○田中義能の論文を読む、○此日、井上波野、男児出産、

八日、午前、晴天、森良三郎、大金と共に来る、○金二五〇円を内金として大金に付与す、○田中義能の論文を読む、○「大日本仏教全書」二冊を送来る、○大学より「大日本史料」壱冊を送来る、○祝物として鯉節壱箱を九鬼隆一に送る、○府税地租割金、一二五厘を郵便局に納む、○書状を浅倉屋に送る、○縫子を三井銀行及び東海銀行等に遣はす、○午后、「三種神宝論」「熱田神宮略記」等を読む、○「創世記」を読む、

○重野博士の「三種神宝弁」を読む、○時事新報社員杉本竹次郎、東京日々新聞社員今井政次、読売新聞社員立花寛一來る、乃ち各々談話を筆記せしむ、○武藤長平より来状、○夜、東朝記者阿部康藏来る、

九日、午前、晴天、学習院に赴く、○「永遠之戦」を読む、○午後、教授会に山上御殿に赴く、○不在中豊田傳次郎来る、○「永遠之戦」を読む、○押田翼母来る、○夜、「創世記」を読む、○鈴木弘来る、○藤井健治郎より来状、○此日、加藤博士に関する談話、時事と読売とに出づ、○加藤博士逝く、享年八十一、

十日、午前、晴天、此日大学特に休業す、○加藤博士死去の爲なり、○佐々木信綱より「移岳集」を送来る、○帝国学士院及び江戸旧事采訪会より来状、○加藤博士に関する談話、東京朝日及び東京日々に出づ、○書状を藤井健治郎、山崎亀太郎、佐々木信綱、松本文三郎に送る、○細田義一より来状、○午后、伊藤吉之助、宮坂喆宗来る、○帝国学士院より来状、○「創世記」を読む、○Cyclopaedia of Biblical Literatureを読む、○縫子、姉崎及び吉田宅に赴く、○Zeller, Die Philosophie der Griechenを読む、○夜、林勃爾来る、○弘刃彦、及び教育實際社より来状、○森泉村路来る、○「旧事紀」を読む、○十一日、午前、晴天、紀元節、時事新報社員生野順一來る、○皇靈殿に参拝し、尋いで宮中に参内し、豊明殿の御宴に列す、○黒田侯爵、高木兼寛、新渡戸稲造、大島健一、森林太郎等と宮中に会見す、○不在中征矢野晃雄、太田省三、橘惠勝、

来る、○市村瓚次郎母の訃報あり、○午后、修養団寄宿所に浅草藏前に赴き、一場の演説をなす、○不在中藤田季莊来る、○加藤弘之宅に赴く、○森泉村路より来状、○夜、吉田修夫より来状、○「青年の覚悟」青年団に出づ、○紀元節に関する談話、やまと新聞に出づ、

十二日、午前、晴天、弔詞を認む、○「旧事紀」を読む、○書状を杉山直喜に送る、○午后、加藤弘之の告別式に青山斎場に赴き、哲学会を代表して弔詞を読む、芳川顕正、曾我祐準、日下寛、等と会談す、○乃木大将夫妻の墓に謁し、尋いで赤坂乃木邸に到る、○日比谷公園に入りて運動すること約一時間、○夜、九鬼一造と中橋縫子との結婚披露の宴に築地精養軒に赴く、高田早苗、末松謙澄、原敬、等と会談す、○此頃、加藤弘之に関する談話、大阪朝日及び大阪時事に出づ、○文科大学より来状、

十三日、午前、晴天、阿部康藏及び白井成允より来状、○橘惠勝、生野順一、征矢野晃雄、竹本長吉来る、○加藤照磨より来状、○浅倉屋より神道書類を送来る、○大日本宗教協会より来状、○午后、「実業修身」六千五百部の奥附を六盟館に付与す、○縫子、高子を拉して井上成美宅に大久保に赴く、○山本辰一來る、有故不遇、○勉強、○Ueberweg, Grundriss der Geschichte der Philosophieを読む、○夜、引続きUeberwegを読む、○勉強、

十四日、午前、晴天、講義に大学に赴く、曾根松太郎来る、○午后、岩井勇藏、長谷川福平来る、○「創世記」を読む、○

芳賀矢一より「戦争と国民性」を、柿花啓正より「進撃的仏教」を、井本隆雄より「臨終記野辺書」を送来る、○微雪、○夜、杉山直喜来る、乃ち談話を速記せしむ、○「創世記」を読む、○此日、縫子をして金五円を宣光に送らしむ、○「東洋哲学研究の必要」東洋哲学に出づ、○「社会と道德」の批評紹介、丁酉倫理及び東洋哲学等に出づ、○松原新之助（瑜洲と号す）逝く、享年六十四、

十五日、午前、晴天、山崎亀太郎、井上圓了及び小林守直より来状、○武藤儀亮来る、○「創世記」を読む、○藤本政介の訃報来る、○「旧事紀」を読む、○午后、博文館員某、国民新聞記者相澤熙、蓮沼門三来る、○「旧事紀」を読む、○夜、河合清太郎来る、乃ち談話を筆記せしむ、○蓮田聖三郎来る、○書状を山崎亀太郎、竹内康二及び藤本仁慈子に送る、○加藤照磨より来状、

十六日、午前、晴天、学習院に赴き、尋いで女学部に至る、○赤司繁太郎と電車中会見す、○川北才一郎より来状、○「逝去せる加藤博士」山陰新聞に出づ、○金港堂より奥附の小包二箇を送来る、○午后、書状を福井久藏に送る、○島本愛之助来る、○「創世記」を読む、○「旧事紀」を読む、○杉山直記より速記を送来る、○「学生宝鑑」壱百部の奥附を大倉書店に付与す、○「女子修身」壱百部及び「新編修身」壱千七百部の奥附を金港堂に付与す、○夜、「旧事紀」及び黑板勝美の論文を読む、○竹内康二来る、

十七日、午前、晴天、徳富猪一郎より来状、○田邊禎夫、鶏卵

を携来る、○勉強、○午后、講義に大学に赴く、○「加藤弘之自叙伝」を読む、○夜、渡邊喜之松及び在英国補永茂助より来状、○伊尾準来る、乃ち談話を筆記せしむ、○此頃、「嗚呼加藤博士」北国新聞に出づ、

十八日、午前、曇天、「創世記」を読了す、○曾根松太郎来る、乃ち談話を筆記せしむ、○小川恂藏来る、有故不遇、○山崎亀太郎より来状、○「御大典の真意義」一徳に出づ、○島本愛之助来る、○午后、速記を訂正す、○高橋龍雄、書状を携来る、○運動に乙羽方面に出づ、○「有声録」を買求め来る、○夜、文科大学より来状、○速記を訂正す、○「加藤弘之自叙伝」を読む、○「井上哲次郎ぬしの普魯士へ行くを送る」とば「有声録」に出づ、

十九日、午前、晴天、飯田義一及び松本隆興より来状、○岩倉鉄道学校の内海清助来る、○速記を訂正す、○伊尾準より筆記を送来る、○六盟館員某来る、○帝国学士院より来状、○浅倉屋より「神祇全書」五冊を送来る、○午后、「師範修身」七百部の奥附を晩成処に付与す、○原稿を速達にて島本愛之助に送る、○書状を杉本竹次郎に送る、○岩井勇藏、鹿島増藏来る、○博文館の筆記を訂正す、○「出埃及記」を読む、○夜、「出埃及記」を読む、○伊尾準来る、乃ち之に原稿を付与す、

二十日、午前、晴天、高田吉親より来状、○松下隆興より小著数種を送来る、○綿貫哲雄、来る、○陽明学会員某来る、乃ち談話を筆記せしむ、○縫子をして宣光金四拾五円を送らし

む、○書状を田所美治に送る、○四宮兼之来る、○午后、Ueberweg, Grundriss der Geschichte der Philosophieを読む、○夜、丁酉倫理会に学士会事務所に赴く、○深作安文及び帰一協会より来状、○此日、宮本和吉来る、

廿一日、午前、曇天、講義に大学に赴く、○多木悦造来る、○午后、若木貞一来る、○「日本経済叢書」(第廿一卷)を送来る、○書状を帰一協会に送る、○「出埃及記」を読む、○筆記を訂正す、○岩田僊太郎来る、○夜、岩倉鉄道学校より来状、○原稿を曾根松太郎に送る、○鹿島増藏来る、乃ち談話を筆記せしむ、○「旧事紀」を読む、○雪、○此頃、民友社より「極東の外交」を送来る、

廿二日、午前、曇天、満都堆雪玲瓏、○塩田桃雄より書状と色紙とを送来る、○「旧事紀」を読む、○「旧事紀偽書考」及び「出埃及記」を読む、○午后、晴天、「旧事紀偽書考」及び「三社託宣考」を読む、○中村久四郎来る、○夜、哲学会に赴く、○蓮田聖三郎より書状と筆記とを送来る、○此日、製本屋来る、

廿三日、午前、曇天、学習院に赴き、尋いで女学部に到る、○黒田家より鴨五羽を送来る、○鹿島増藏より書状と原稿とを送来る、○女中ゆうを大学に遣はす、○午后、岩井勇藏来る、○筆記を訂正す、○「逝ける加藤博士」鹿兒島新聞に出づ、○原稿を鹿島増藏に送る、○「出埃及記」を読む、○夜、「旧事紀」及び「続日本紀」を読む、○雨、○「神道明弁」を読む、廿四日、午前、曇天、中川萬次郎、島本愛之助より来状、○尾

原亮太郎より書状と論文とを送来る、○宣光より縫子に來状、○「神道明弁」を読了る、○田部井勝藏(豊橋市八町高等小学校内豊橋市教育会)より「豊橋市及其附近」を送来る、○「神道独語」を読了る、○「神道問答」を読む、○午后、霽る、○講義に大学に赴く、○帝国学士院より来状、○文部省より書類を送来る、○清子、吉田宅に御殿町に赴く、○「出埃及記」を読む、○書状を田部井勝藏に送る、○夜、相澤澤来る、乃ち談話を筆記せしむ、○「敬宇詩集」を読む、

廿五日、午前、晴天、河合清太郎より書状と原稿とを送来る、○原稿を教育實際社に送る、○征矢野晃雄外二名来る、○「教界春秋」を草す、○文明協会より「幸福学」を送来る、○竹内康二より来状、○帝国学士院より使者来る、○「列聖全集」(第九回)を送来る、○午后、「教界春秋」を速達にて日清印刷に送る、○島本愛之助、西村郁夫来る、○岩倉鉄道学校に赴き、一場の修身講話をなす、○夜、美学研究会に山上御殿に赴く、○杉本竹次郎より書状を送来る、○此日、宣光より電報来る、○宣光中耳炎に罹る、○縫子、鹿兒島に赴くことに決す、

廿六日、午前、半晴、電報を宣光に送る、○西村郁夫来る、○相澤澤、原稿を携来る、○国書刊行会より「群書備考」及び「徳川文芸類聚」(第七)を送来る、○「出埃及記」を読む、○若木貞一、遠藤隆吉、若槻道隆、久保源一より来状、○久保源一よりコノワタ壺樽を送来る、○日清印刷より口絵を送来る、○午后、書状を遠藤隆吉に、「東亜の光」口絵解題を

日清印刷に送る、○縫子、鹿兒島に向つて出発す、○宣光より電報来る、○電報を宣光に送る、○「婦人問題研究会」に中央亭に赴く、○夜、岩倉鉄道学校に赴き、一場の講演をなす、○岡松参太郎より「訳常山紀談」拾冊を送来る、○吉見乾海より書状と海原とを送来る、○「大典・紀念・講演」海原に出づ、

廿七日、午前、晴天、相澤瀨来る、乃ち之に原稿を付与す、○「出埃及記」を読む、○金港堂より奥附二包を送来る、○午后、Ueberweg, Grundriss der Geschichte der Philosophie 及び Höffding, Modern Philosophers を読む、○竹内康二、写物を携来る、○夜、引続き Höffding, Modern Philosophers を読む、○勉強、

廿八日、午前、曇天、坂本嘉治馬母の訃報来る、○講義に大学に赴く、○国民新聞の月曜講壇に「故・加藤・弘之男」出づ、○製本屋来る、○午后、「中学修身」五千部の奥附を弘道館に付与す、○山本辰一、筆記を携来る、○森良三郎、岩井勇藏来る、○「出埃及記」を読む、○「新編修身」壺万千四百部の奥附を金港堂に付与す、○木村博昭来る、有故不遇、○「旧事紀」を読む、○夜、「旧事紀」を読む、○雨、○「続日本紀」及び「敬字詩集」を読む、

廿九日、午前、雨天、中華民國留日学生総会より来状、○女中ゆうを東海銀行に遣はす、○Höffding, Modern Philosophers を読む、○書状を岡松参太郎及び坂本嘉治馬に送る、○「大日本仏教全書」を送来る、○帝国議會閉会、○午后、岩倉鉄

道学校より内海清助、御礼の為に来る、○書状を吉田豊吉及び兒島喜久雄に送る、○二木保幾来る、○野々村直太郎及び新居勝三郎より来状、○Theodor Sternberg 使者を遣はし、Die Entwicklungslinie der Rechtsphilosophie を送来る、○夜、「旧事紀」及び「続日本紀」を読む、

三月

一日、午前、曇天、有風、小雨、博文館及び蓮沼門三より来状、○学習院に赴く、○「根柢なき政争」東朝に出づ、○平邑佐太郎より来状、○「出埃及記」(Das andere Buch Mose) を読む、○「日本国粹全書」第十二輯を送来る、○「日本大藏經」を送来る、○午后、書状を博文館に送る、○宮本和吉より来状、○書状を森良三郎に送る、○「続日本紀」を読む、○書状を川北才一郎及び宮本和吉に送る、○宮本和吉より「哲学概論」を送来る、○「故・加藤・博士に對する印象」太陽に出づ、○夜、「旧事紀」を読む、○書状を高橋龍雄に送る、○「神道問答」を読む、

二日、午前、晴天、谷田三郎及び帝国学士院より来状、○「旧事紀」を読む、○「師範修身」参百部の奥附を晩成処に付与す、○午后、講義に大学に赴く、○「師範修身」参百部の奥附を晩成処に付与す、○「出埃及記」を読む、○「東亜の光」(十一の三) 成る、○「故・加藤・弘之博士を追悼す、」東亜の光に出づ、○夜、縫子より電報来る、○書状を榎本勝多に送る、○陽明学会の筆記を訂正す、○此日、ダールマン曰く、今の羅馬法王は彼得以来二百六十一人目なりと、

三日、午前、晴天、縫子及び兒島喜久雄より来状、○英国徴兵制度、新聞紙上に見ゆ「頁下部に英国徴兵制度の新聞記事切抜貼付」、○鈴木弘、岩崎善郎来る、○書状を兒島喜久雄及び朝永三十郎に送る、○竹内康二、写物を携来る、○書状を釋宗演、亀井忠一及び岩倉鉄道学校に送る、○午后、「出埃及記」を読む、○「中学漢文」一千八百部の奥附を光風館に付与す、○尾原亮太郎及び桑門藻太郎来る、○運動に本郷方面に出づ、○不在中兒嶋喜久雄来る、○夜、冲莊藏より来状、○縫子、宣光と共に帰来る、正勝を拉して之を東京駅に迎ふ、

四日、午前、半晴、深作安文、島本愛之助、竹本長吉、吉田雪子来る、○大島直治より湯吞を送来る、○午后、「新編修身」一千五百部、「中学修身」壹百五十部及び「女子修身」壹千部の奥附を金港堂に付与す、○「出埃及記」を読む、○経師屋来る、○書状を内ヶ崎作三郎に送る、○中垣安太郎の計報来る、○雨、○夜、Hoffding, Modern Philosophersを読む、○吉田豊吉、大野太衛、小関隆、島本愛之介及び宗教研究会より来状、○此日、元田南豊（名は直）逝く、享年八十三、

五日、午前、晴天、春枝より縫子に来状、○帝国学士院より来状、○吉田熊次、小林文七、山内素行、山本辰一、武藤儀亮来る、○林捨藏より縫子に書状と菓物とを送来る、○「中学漢文」五千部の奥附を光風館に送る、○午后、書状を帝国学士院及び漢文学会に送る、○Hoffding, Modern Philosophersを読む、○運動に大塚方面に出づ、○夜、釋敬俊、島本愛之助、布川孫市、山内素行より来状、○勉強、

六日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○大橋秀治、岩井勇藏来る、○午后、桑門藻太郎、四宮兼之、三枝光太郎来る、○養田重徳より来状、○「出埃及記」を読む、○夜、島地雷夢追悼懇談会に中央亭に赴く、○不在中製本屋来る、○文科大より来状、

七日、午前、晴天、川北才一郎より来状、○珍書同好会より「古今和歌集註」を送来る、○書状を川北才一郎及び養田重徳に送る、○所得税金三三、七三〇及び府税市税金六、五九〇、合計金四〇、三二〇を郵便局に納む、○書状を帰一協会事務所に送る、○鈴木弘来る、○午后、「出埃及記」を読む、○小林文七より来状、○書状を大槻文彦に送る、○女中を元田肇宅に遣はし、香典料を送る、○「旧事紀」及び「続日本記」を読む、○Plarer Jakob Hunziker来る、○夜、興学会に赴く、○中島徳藏より来状、○飯盛挺造の計報来る、

八日、午前、晴天、学習院に赴き、尋いで女学部に来る、○三枝光太郎より来状、○午后、教授会に大学に赴く、○島地大等、御礼の為に来る、○書状を小関隆、飯盛里安、布川孫平に送る、○浦谷熊吉来る、○吉丸一昌、昨日逝去せるの報あり、○製本屋来る、○夜、多木悦造より来状、○「旧事紀」「続日本記」及び「出埃及記」を読む、○吉丸一昌の計報来る、○此日、押田翼妻来る、

九日、午前、晴天、「旧事紀」を読了る、○「続日本記」を読む、○金井延の為に金三円を高野岩三郎に送る、○山内佐太郎より書状と「活教育」とを送来る、○午后、「実業修身」三百

部及び「中学修身」四百部の奥附を文学社に付与す、○講義に大学に赴く、○花見喜代次より来状、○十時弥、原稿を携来る、○夜、八田徳三郎来る、○「出埃及記」を読了す、十日、午前、晴天、宮地友次郎、奥澤福太郎、三上義夫、ヤコブ、フンチカー、島本愛之助、白石実三来る、○金港堂より奥附を送来る、○独逸対葡萄宣戦、○午后、曇天、川北才一郎、飯田義一より来状、○「利未記」を読む、○Jakob HunzikerよりDie Heilige Schrift des Alten Testamentを送来る、○「女子修身」三千二百部の奥附を金港堂に付与す、○「中学修身」五千部の奥附を弘道館に付与す、○「国民教育の統一に就いて」教育界に出づ、○夜、歴史地理会に山上御殿に赴く、○不在中小中村清名来る、○櫻井美及び文部省より来状、十一日、午前、雪、満都皚々、書状を吉丸一昌男昌武に送る、○帝国学士院より使者来る、○金港堂より奥附を送来る、○林泰輔著書審査報告を草す、○午后、高野岩三郎及び早稲田音楽会より来状、○書状を林泰輔に送る、○引き続き、審査報告を草す、○澤田利治及び明治火災保険会社より来状、○再び書状を林泰輔に送る、○天霽る、○中村久四郎来る、○夜、曾根松太郎より来状、○審査報告を草了る、十二日、午前、晴天、辻本卯藏より来状、○阿部東作、林泰輔、豊田臻、八太徳三郎来る、○原田為市、箭内亘の紹介状を携来る、○書状を宮地友次郎に送る、○小関隆より来状、○午后、府立師範学校同窓会に帝国教育会に赴き、「神道と国民理想」を講演す、聴衆約三百人、○吉丸昌武及び島地大等より

来状、○太田稠夫、林勃爾来る、○宣光、鹿兒島に向つて出發す、○帝国学士院に赴く、○八田徳三郎及其他より来状、○製本屋来る、○夜、十時頃帰宅、○此日、「日本経済叢書」二十二巻を送来る、○ローレンス逝く、享年六十七、十三日、午前、曇天、文科大学及其他より来状、○ローレンスに関する談話、時事新報に出づ、○講義に大学に赴く、○山田勇来る、○午后、臨時教授会に山上御殿に赴く、○不在中岩橋遵成来る、○穂積陳重より「青丘詩鈔」を送来る、○小林文七、岩井勇藏来る、○「利未記」を読む、○「中学修身」七部部を文学社に、「新編修身」六千七百部の奥附を金港堂に付与す、○井上成美宅より鶴子餅と鯉節券とを送来る、○小中村清名来る、○文部省より「時局に関する教育資料」(六)を送来る、○夜、「利未記」を読む、○文科大学及其他より来状、○「殉難士伝」を読む、十四日、午前、曇天、文科大学、大槻茂雄及び日本百科大辞典完成会より来状、○富山房より「漢文大系」第二十一冊を送来る、○「幽宝文稿」及び「新史壇」を読む、○櫻井美、府立師範学校同窓会を代表し、御礼の為に来る、○富田いわより縫子に來状、○午后、ローレンスの葬式に基督友会に赴く、○林勃爾、宮地友次郎、及び金龍寺より来状、○「利未記」を読む、○書状を肝付兼行及び林勃爾に送る、○夜、八田徳三郎来る、乃ち談話を筆記せしむ、○田所美治、飯盛里安、田崎次郎作、及び京都哲学会より来状、十五日、午前、曇天、ジョージ・プレイスウェイト及び御殿場

町東山村民より来状、○学習院に赴き、尋いで女学部に到る、
○午后、教授会に山上御殿に赴く、○雪、○不在中増田俊一
来る、○「中学修身」壺千部の奥附を弘道館に「実業修身」
三千九百部の奥附を六盟館に付与す、○麻生正藏より来状、
○書状を田崎次郎作商店に送る、○夜、杉山直喜来る、乃ち
談話を速記せしむ、○書状を穂積陳重に送る、○此日、「利
未記」を読む、

十六日、午前、晴天、富山房及び山田源一郎より来状、○武藤
儀亮来る、○明治火災より増田俊一来る、乃ち隣家金
二五〇〇の保険を継続す、○八田徳三郎、原稿を携来る、○
勉強、○午后、講義に大学に赴く、○帝国学士院、田崎商店
及び其他より来状、○宮坂喆宗来る、○夜、「利未記」を読む、
○書状を帝国学士院に送る、○政教社の筆記を訂正す、

十七日、午前、晴天、石幡貞の計報あり、○実業之日本社より
「哲学と文芸」とを送来る、○政教社の筆記を訂正す、○島
本愛之助、山内素行、武藤儀亮、松浦一来る、○林勃爾、宮
内黙藏等より来状、○田崎商店々員来る、乃ち之に日本硫酸
会社株券（二十株）を渡す、○島本愛之助再び来る、○「師
範修身」七百部の奥附を晩成処に付与す、○午后、政教社の
筆記を訂正して之を送る、○杉山直喜より速記を送来る、○
「学生宝鑑」壺百部の奥附を大倉書店に付与す、○「加藤博
士と明治初年の教育家」小学校に出づ、○速記を訂正す、○
中島力造より来状、○夜、有風、○書状を中外日報社に送る、
○雷雪、○書状を石幡五郎及び島本愛之助に送る、○原稿を

速達にて島本愛之助に送る、○書状を奥澤福太郎、白石実三
及び帝国学士院に送る、

十八日、午前、晴天、富田順吉より書状と田作り壺箱とを送来
る、○伊藤秀吉来る、○勉強、○帰一協会より来状、○深作
安文来る、○午后、半晴、次第に曇る、○書状を帰一協会に
送る、○勉強、○運動に乙羽方面に出づ、○宮坂喆宗より来
状、○書状を杉山直喜に送る、○夜、勉強、○河本禎助より
来状、

十九日、午前、晴天、岩橋遵成、坪田栄陽来る、○勉強、○午
后、丁酉倫理会に帝国教育会に赴き、「儒教は果して功利主
義なるか」を講演す、聴衆約二百名、○「女子修身」壺
千三百部の奥附を金港堂に付与す、○磯江潤及び廓清会本部
より来状、○夜、学士会事務所に会食す、○此日、甫守謹吾
より「国民作法要義」を送来る、○橘惠勝より序文と校正摺
とを送来る、

二十日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○関宇一郎来る、○
「利未記」を読む、○姉崎宅より彼岸団子を送来る、○渡邊
久太郎より来状、○午后、森良三郎、栢原文太郎、征矢野晃
雄、岩井勇藏、長谷川福平来る、○「利未記」を読む、○運
動に巢鴨方面に出づ、○夜、文科大学及び大井六郎より来状、
○書状を廓清会本部及び渡辺久太郎に送る、○書状を島本愛
之助に送る、○此日、巢鴨差配所成る、

廿一日、春季皇霊祭、午前、晴天、「仏教心理の研究」の序を
草して之を高島圓に送る、○白石実三来る、○日清印刷より

東亜の光口絵を送来る、○「列聖全集」(第十)を送来る、○午后、光風館店員松村清陰来る、○「東亜の光」口絵解題を日清印刷に、書状を桑木嚴翼に送る、○帝国学士院及び其他より来状、○床屋に赴く、○「利未記」を読む、○田中次郎妻来る、○書状を帝国学士院に送る、○曇る、○夜、杉山直喜来る、乃ち談話を速記せしむ、○「古今義人録」の序を草す。○帝国学士院及び暁星学校等より来状、

廿二日、午前、雨天、高島圓より来状、○「古今義人録」の序文を草して之を山内素行に送る、○「利未記」を読む、○午后、小雨、教授会に山上御殿に赴く、○不在中宮内黙藏来る、○「利未記」を読む、○富田貞松より来状、○「礼器篇」を読む、○夜、勉強、○「祭統篇」を読む、○杉山直喜より速記を送来る、○有風、

廿三日、午前、曇天、有風、微雪、「祭統篇」を読む、○原稿を島本愛之助に送る、○「中学修身」四千部の奥附を弘道館に付与す、○神奈川県鎌倉郡長藤田俱次郎来る、○縫子を三越及び三井銀行に遣はす、○上野竈太郎よりネーブル奩箱を送来る、○前川文栄閣来る、乃ち之に「釈迦牟尼小伝」五百部の奥附を付与す、○彼岸団子を吉田及び姉崎宅に送る、○「根柢なき政争」樺太日々新聞に出づ、○午后、講義に大学に赴く、○夜、哲学会に山上御殿に赴く、○「女子修身」二百部の奥附を金港堂に付与す、○此頃、巢鴨宮仲に家二戸を増築し、一戸を改築す、新築中一戸は差配所なり、

廿四日、午前、晴天、森良三郎来る、乃ち之に建築費残額金

三三二、○○を付与す、○島本愛之助、上野竈太郎、深作安文、渡邊久太郎来る、○「利未記」を讀了して「民教紀略」を読む、○祝儀の贈物を山崎龜太郎及び山口龍藏に送る、○「民教紀略」を讀む、○女中のぶを東海銀行に遣はす、○黒田家より使者来る、○書状を中島力造及び伊藤秀吉に送る、○運動に巢鴨差配所に到る、○夜、「教界春秋」を草す、

廿五日、午前、晴天、博文館、丙午出版社及び山口察常等より来状、○山川健次郎妻の計報来る、○校正を秀英社に送る、○深作安文来る、○齋藤精輔、「日本百科大辞典」第七巻を携来る、○「教界春秋」を草了りて之を日清印刷に送る、○「民教紀略」を読む、○民友社より「婦人問題」を送来る、○午后、「民教紀略」を読む、○書状を花見喜代次及び富田貞松に送る、○「婦人問題研究会」に中央亭に赴く、平沼淑郎、内田魯庵、津田梅子、鳩山春子、澤柳政太郎、牧野菊之助等と会見す、○夜、九時頃帰宅、橘惠勝、伊藤情人等より来状、

廿六日、午前、晴天、三上義夫、梅野駿二、三越、廓清会及び東亜協会より来状、○宮本和吉、宮内黙藏、蠣瀬彦藏、中村久四郎来る、○「此の一路を辿れ」向上に出づ、○午后、山川健次郎妻御子の為に伝通院に赴き焼香をなす、○運動に大塚方面に出づ、○目黒書店より「プラグマテズムの倫理説」を送来る、○夜、廓清会に青年会館に赴き「一夫一婦の道」に就いて一場の講演をなす、聴衆約一千五百名、○「祭統篇」

を読む、

廿七日、午前、晴天、山崎亀太郎、小宮山源太郎、花見喜代次及び山川徳治より来状、○学習院女学部の卒業式に赴く、徳川家達、松浦厚、嘉納治五郎等と会見す、○「女子修身」五百部の奥附を金港堂に、「中学修身」壹百二十部の奥附を金港堂に付与す、○午后、岩井勇藏、土田誠一、堀謙徳来る、○文科大学の使者来る、乃ち之に松浦一の論文を付与す、○征矢野晃雄、深作安文来る、○「民数紀略」を読む、○夜、飯田義一より来電、○返電を飯田義一に送る、○小中村清名「浮世草子」四冊を送来る、○文科大学より来状、○「民数紀略」を読む、○日本弘道会より来状、○書状を中島力造に送る、

廿八日、午前、晴天、七、○○頃私宅を出で八、一〇上野発、高木兼寛と同車す、○十一時頃矢田部に着、小学校に赴く、○午后、一二、一〇頃、「時局と国民教育」に就いて一場の講演をなす、聴衆約五百人、○小関隆（郡長）、高藤太一郎（師範学校長）、米津栄次郎（麻布区会議員）、片見喜太郎（医）等と会見す、○夜、六、三〇頃上野着、直に築地精養軒に赴く、○八、○○頃帰宅、○不在中増田俊一来る、○「女子修身」五百部の奥附を金港堂に付与す、○帝国学士院より来状、○東亜協会より印刷物を送来る、○田邊唯司夫妻、吉田熊次夫妻来る、

廿九日、午前、曇天、文科大学、同文館及び福井晋太郎より来状、○八木沼源八より「行為論」を送来る、○書状を中島力

造、福井晋太郎及び同文館に送る、○中村久四郎及びコーツ来る、○コーツと共に昼餐を喫す、○「師範修身」参百部の奥附を晩成処に付与す、○「近世仏教集説」を送来る、○午后、高仲章来る、○「中学漢文」四百部の奥附を光風館に付与す、○名古屋の速記を訂正す、○夜、島本愛之助及び山崎亀太郎より来状、○伊藤吉之助来る、○書状を島本愛之助に送る、○速記を訂正す、

三十日、午前、晴天、文科大学より来状、○速記を訂正す、○「高杉東行を憶ふ」日本及日本人に出づ、○書状を中島力造に送る、○浅倉屋より「日本書紀通証」「続日本紀考証」「神祇全書」「標註職原抄」「塩土伝」「葦牙」等総計参拾壹部（代価金三〇、二〇〇）を買取る、○午后、速記を訂正す、○中島慎一、島本愛之助、田邊唯司夫妻来る、○島本愛之助より来状、○木村博昭、「医世異論」二冊を携来る、○大島健一、陸軍大臣となる、○富田貞松より来状、○夜、縫子、吉田宅に赴く、○書状を速達にて柏原文太郎に送る、○速記を訂正す、○此日、在倫敦の補永茂助よりTimesを送来る、

卅一日、午前、曇天、白井成允より来状、○原田為市来る、○速記を訂正す、○書状を国晃社に送る、○書状を河本楨助及び中村清二に送る、○午后、速記を訂正して了りて之を飯田義一に送る、○運動に池袋方面に出づ、○田邊春枝来る、○不在中富山房員佐藤栄七来る、○夜、孔子祭典会の速記を訂正す、○「東亜の光」（十一の四）成る、○「神社は宗教的機関にあらざる」及び「支那の将来」東亜の光に出づ、

四月

一日、午前、雨天、吉田修夫、国晃館及び婦一協会より来状、
 ○高橋喬松来る、○帝国学士院に赴く、○不在中森良三郎来る、○小関隆、山口龍藏及び斯文学会より来状、○「日本大藏經」を送来る、○午后、速記を訂正す、○田中巖及び櫛引成太来る、○金龍寺及び其他より来状、○書状を中村久四郎に送る、○「儒教は功利主義なるか」中外日報に出づ、○夜、速記を訂正す、○天霽る、○白石実三より原稿を送来る、○日本弘道会、中央仏教会館及び齋藤啓介等より来状、○松浦伯爵より案内状来る、

二日、午前、晴天、山崎亀太郎、小宮山源太郎、森山正来る、
 ○郁文館の卒業式に赴き、一場の演説をなす、○岡田正之、高津鋏三郎、林堯臣等と会見す、○「大日本仏教全書」を送来る、○「中学修身」壺千五百部の奥附を弘道館に付与す、○不在中堀謙徳、河井太朗来る、○午后、山崎亀太郎、小宮山源太郎再び来る、○原稿を訂正して之を白石実三に送る、○亀井祥子、松平裕香子、三井裕子、久保美代子、御礼の為に来る、○「備前の陽明学者に就て」陽明学に出づ、○田中巖、原稿を携来る、乃ち原稿を訂正して之を付与す、○岩井勇藏藏来る、○夜、速記を訂正す、○「儒教は功利主義なるか」中外日報に出づ、○横山徳次郎より来状、

三日、神武天皇祭、午前、晴天、天皇皇后両陛下畝傍の神武山陵に参拝あらせらる、神武天皇崩御以来実に二千五百年、○島本愛之助、堀謙徳、及び著作家協会より来状、○小中村清

名、岩井勇藏来る、○神武天皇祭に関する談話、時事新報に出づ、○速記を訂正す、○松村清陰来る、○午后、山崎亀太郎再び来る、○太田資順、前田正次、高野敬録、征矢野晃雄来る、○評議員会に斯文学会に赴く、石黒忠恵、土屋鳳洲等と会見す、○深作安文より来状、○夜、原稿を訂正す、○中島徳藏より速記を送来る、○山田陽朔より来状、○小宮山源太郎来る、

四日、午前、晴天、有風、渡邊芳太郎より来状、○山崎亀太郎、小宮山源太郎又来る、東・山・別・荘・裏・地・所・壺・千・五・百・九・十・坪・余・購入の事に決定し、約束成立す、○縫子を三井銀行に遣はす、○佐藤栄七来る、○速記を訂正す、○山田陽朔より祝物を送来る、○金参百円を小宮山源太郎に渡す、○在御殿場加藤玄智より来状、○午后、孔子祭典会の速記を訂正す、○書状を竹内康二及び中村久四郎に送る、○桂辨三より来状、○書状を甫守謹吾及び山崎亀太郎に送る、○天曇り、風強し、○夜、隈川教授在職二十五年記念祝賀会上野精養軒に赴く、辰野金吾、中濱東一郎、永井潜等と会見す、○東敬治及び日本弘道会より来状、○監獄協会の速記を訂正す、○此日、林勃爾来る、

五日、午前、曇天、飯田義一、井上俊雄及び前田正次より来状、
 ○書状を日本弘道会に送る、○速記を訂正す、○中村久四郎来る、乃ち之に原稿を付与す、○山中隣之助より書状と祝物とを送来る、○渡邊芳太郎より祝物を送来る、○笹川貞より来状、○竹内康二来る、乃ち之に写物を付与す、○午后、天

霽る、○速記を訂正す、○田邊唯司来る、○帝国学士院、大野太衛、瀨本信一より来状、○書状を帝国学士院に送る、○清子外出して処々に訪問す、○「儒教は功利主義なるか」中外日報に出づ、○「中学修身」二百部の奥附を文学社に付与す、○夜、引き続き速記を訂正す、○学習院より来状、

六日、午前、晴天、Harper H. Coates より来状、○渡邊武、宮本和吉来る、○速記を訂正す、○女中ゆふを三井銀行に遣はす、○午后、速記を訂正す、○十時弥及び白石実三より来状、○田辺唯司、益之進と共に上野に赴く、○齋藤基次郎より来状、○「師範修身」二百部の奥附を晩成処に付与す、○日本学会の案内状九通を発送す、○運動に大塚方面に出づ、○「実業修身」三百部の奥附を六盟館に付与す、○夜、「近思錄集解」を訂正す、○帝国学士院より来状、○書状を帝国学士院に送る、七日、午前、快晴、釋宗演及び藤本政介妻より来状、○「中学修身」五百部の奥附を弘道館に付与す、○尾原亮太郎、岡田正之、高野敬録、島本愛之助、原田幹、二宮清徳来る、○速記を訂正す、○「新編修身」一千二百部及び「女子修身」八百五十部の奥附を金港堂に付与す、○齋藤省三及び島本愛之助より各々鯉節を送来る、○電話使用料金一六、五〇〇を郵便局に納む、○午后、曇天、書状を山口察常及び山口龍藏に送る、○「近思錄集解」の原稿を訂正す、○穂積陳重来る、○夜、田邊唯司全春枝の結婚披露を懇親会を兼ねて上野精養軒に開く、来会者総計二十五人、○原田為市より来状、

八日、灌仏会、午前、晴天、珍書同好会より「古今和歌集註」

と「浮世花鳥風月」を送来る、○木村武雄来る、○原稿を訂正す、○「中学漢文」二百部の奥附を光風館に付与す、○午后、春暖催ふす、○原稿を訂正す、○書状を長谷川福平に送る、○田邊唯司、春枝と共に訪問に赴く、○夜、日本学会に赴く、石橋智信、コーツ二氏の講演あり、来会者約二十名、○亀谷聖馨より来状、

九日、午前、曇天、渡邊貞五郎、隈川宗雄及び山崎亀太郎より来状、○原稿を訂正す、○元田肇より縮緬の風呂敷を送来る、○大橋秀治、田邊為三郎来る、○湯原元一より「教育及教育学の改造」を送来る、○午后、豊田臻来る、○原稿を訂正す、○「結婚の戒」国民新聞に出づ、○田邊唯司、春枝と共に福岡に向つて出発す、○姉崎袖子来る、○史学総会に上野精養軒に赴く、原勝郎、新見吉治、大類伸、小牧昌業、矢野仁一などと会見す、○夜、九時頃帰宅、○原稿を訂正す、○宣光及び松尾圓治より来状、○此日、氣候、俄に温暖、

十日、午前、晴天、風塵、講義に大学に赴く、○原稿を訂正す、○富山房員来る、乃ち之に原稿の一部分を付与す、○宮本和吉及び前田正次等より来状、○金三、〇〇の為換を宣光に送る、○齋藤基次郎より贈物来る、○午后、原稿を訂正す、○高野敬録、二宮清徳、日高某、岩井勇藏、藤田季莊来る、○夜、原稿を訂正す、○書状を長谷川福平に送る、

十一日、午前、曇天、富山房より「漢文大系」(第十六)を送来る、○文科大学より来状、○原稿を訂正す、○書状を兒玉實徳、齋藤啓介及び松浦伯爵に送る、○午后、晴天、原稿を

訂正す、○「冷熱録」を宮崎道三郎に送る、○「女子修身」二千九百部及び「新編修身」二百部の奥附を金港堂に付与す、○乙竹岩造より「晩近教育事業の進歩」を送来る、○橘惠勝より「仏教心理の研究」を送来る、○富山房員来る、乃ち之に原稿の一部を付与す、○文明協会より「婦人と犯罪」を送来る、○「日本経済叢書」(第廿三)及び「日本国粹全書」(第十三)を送来る、○山口龍藏より来状、○「仏教は果して功利主義乎」東洋文明に出づ、○夜、原稿を訂正す、○台湾の民政長官下村宏より来状、○「民数紀略」を読む、

十二日、午前、晴天、学習院に赴き、尋いで女学部に至る、○女学部に於て賜物を受く、○午后、教授会に山上御殿に赴く、○土井壯良来る、○「女子修身」六百部の奥附を金港堂に付与す、○帝国学士院に赴く、○夜、九時頃帰宅、○此頃、桜花爛漫、

十三日、午前、曇天、征矢野晃雄より来状、○吉田雪子、齋藤庸一郎、及び齋藤幾子来る、○「中学修身」百五十部の奥附を弘道館に付与す、○齋藤庸一郎、全幾子と昼餐を共にす、○午后、市村長三郎来る、○講義に大学に赴く、○「実業修身」二百部の奥附を六盟館に付与す、○宮崎賢二より来状、○夜、「民数紀略」を読む、○速記を訂正す、○吉田熊次及び堀内静宇より来状、

十四日、午前、晴天、帝国学士院より使者来る、○島本愛之助、武藤儀亮、中村長三郎来る、○午后、曇天、「シヨーパーンハウエル研究」の序を草して之を東亜堂書房に送る、○若林春

治来る、○縫子、贈物を携へて柏原文太郎宅に赴く、○三枝光太郎より来状、○「大戦後は如何なるか」中央新聞に出づ、○田邊春枝より縫子に来状、○書状を征矢野晃雄に送る、○夜、丁酉倫理会の速記を訂正す、○三枝光太郎より来状、十五日、午前、雨天、「女子自身の問題」読売新聞に出づ、○速記を訂正す、○高田甚四郎来る、○午后、坂本嘉治馬より反物二反を送来る、○書経を読む、○速記を訂正す、○文科大学より来状、○東京朝日の記者坂崎坦来る、○夜、「民数紀略」を読む、○速記を訂正す、

十六日、午前、半晴、棚橋絢子、高橋仁、高野敬録、及び大倉書店員来る、○富山房より小包を送来る、○午后、曇天、濱本志げ、贈物を携来る、○Henri Poincaré, Science and Hypothesisを読む、○高子、女中ゆうと共に植物園に赴く、○藤田圭之介及び婦人協会より来状、Emile Boutroux, Natural Law in Science and Philosophieを読む、○夜、勉強、

十七日、午前、晴天、兒玉實徳より来状、○講義に大学に赴く、○「新編修身」三百部の奥附を金港堂に付与す、○宮内省より招待状来る、○入江為守より来状、○午后、曇天、小中村清名、武藤儀亮、宮本和吉来る、○「民数紀略」を読む、○縫子、田邊慎夫宅に大久保に赴く、○富田貞松より来状、○運動に巣鴨方面に赴く、○「大戦争の与ふる教訓」皇道に出づ、○夜、書状を豊田臻に送る、○「大戦後は如何なるか」中央新聞に出づ、○中島善太郎より来状、○夜、速記を訂正す、○書経を読む、○此日、桜花如雪、

十八日、午前、晴天、速記を訂正す、○女中ゆふを文科大学に遣はし、大札記念章之証を受取る、○松平直亮伯及び日本弘道会より来状、○在英国補永茂助より来状、○書の大詰を読む、○午后、岩井勇藏来る、○速記を訂正す、○「井上哲次郎氏とカント」東京毎日に出づ、○山茶花正に美なり、○縫子、児輩を拉して植物園に赴く、○運動に白山方面に赴く、○夜、山口察常来る、○長澤林太郎より「祖先教々書」を送来る、○此日、文科大学より「文科大学紀要」(第二)を送来る、

十九日、午前、晴天、「中学漢文」五百部の奥附を光風館に付与す、○在米国押田三郎より来状、○宣光、麻生正藏、向陵社及び斯文学会より来状、○学習院に赴く、○帰途長崎村を経過す、○「列聖全集」(第十一回)を送来る、○「東亜の光」四月号と金五円の為換を宣光に送る、○「民数紀略」を読む、○午后、速記を訂正す、○「中学修身」二百部の奥附を文学社に付与す、○高嶋圓来る、○豊田臻より来状、○東亜堂書房より校正来る、○夜、校正を東亜堂に送る、○「古学本教大意」を読む、

二十日、午前、晴天、有風、團琢磨より招待状来る、○速水滉より「論理学」を、高島圓より「曼荼羅通解」を送来る、○勉強、○午后、曇天、「玉くしげ」を読む、○講義に大学に赴く、○帝国学士院より来状、○「民数紀略」を読む、○夜、「民数紀略」を読む、○速記を訂正す、○「玉くしげ」を読む、○吉田熊次、後藤武夫、及び孔子祭典会より来状、○此

日、竹内康二、写物を携来る、

廿一日、午前、曇天、庭園の八重桜満開、○法華会より来状、○征矢野晃雄、井川尚、武藤儀道、武藤儀亮、島本愛之助、上野龜太郎、Platter Jakob Hunziker 来る、○速記を訂正す、○午后、引続き速記を訂正す、○大久保の田邊宅より野菜類を送来る、○小野元次、宮本金六より来状、○夜、伊藤吉之助来る、○丁酉倫理会の速記を訂正し了る、○島本愛之助より来状、○此日、書状を法華会、孔子祭典会、帰一協会等に送る、

廿二日、午前、曇天、庭園の桜花、海棠、山茶花及堇等争ひ開く、○書状を島本愛之助、高島大圓、速水滉、湯原元一、乙竹岩造及び橘勝に送る、○「我邦文明の恩人弘法大師」学生に出づ、○書の君夷を読む、○午后、哲学春季公開講演会に赴く、深田康算、姉崎正治の講演あり、○夜、カントアーベンドを山上御殿に開く、来会者約四十名、鹿子木員信、桑木嚴翼の講演あり、○文部省及び島本愛之助より来状、○不在中吉田雪子来る、○微雨、○文科大学より来状、

廿三日、セクスピーヤ三百年祭、午前、雨天、富山房より来状、○書状を富山房及びヘラルド社に送る、○山内計作、得能文来る、○孔子祭典を湯島聖堂に行ふ、○午后、勉強、○書状を小倉常吉に送る、○丁酉倫理会に学士会事務所に赴く、○夜、九時過帰宅、

廿四日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○富山房員来る、○小野清秀より来状、○金原善三郎より来状、○女中ゆふを大

学に遣はす、○「国民道德概論」百九十部の奥附を三省堂に付与す、○午后、温度高く摂氏二十五度に上る、○平塚唯鳩、高田甚四郎来る、○文明協会より「塊地利勾牙利」を送来る、○「教界春秋」を草す、○日之出生命より来状、○書状を日之出生命に送る、○高子及び押田昇種痘、○「実業修業」二百部の奥附を六盟館に付与す、○縫子、吉田宅に赴く、○夜、吉田熊次夫妻来る、○文科大学より来状、○菊地廣の計報来る、○「教界春秋」を草して之を日清印刷に送る、

廿五日、午前、晴天、政教社より来状、○女中ゆふを東海銀行に遣はす、○Kautsch. Die Heilige Schrift des Alten Testaments 著 Pfarrer Jakob Hunziker に返す、○女子高等師範の速記を訂正す、○午后、小雨、「新編倫理」五十部の奥附を金港堂に付与す、○小山良子来る、○速記を訂正す、○縫子、齋藤基次郎宅に赴く、○祝物を團琢磨宅に送る、○岩崎文次及び Schopenhauer=Gesellschaft 等より来状、○為換入の書状を菊池武幹に送る、○「民数紀略」を読む、○竹内康二来る、乃ち之に写物を委托す、○夜、書状を岩崎文次に送る、○中島力造より鯉節と真綿とを送来る、○速記を訂正す、

廿六日、午前、曇天、学習院に赴き、尋いで女学部に来る、○午后、教授会に山上御殿に赴く、○不在中深田康算来る、○日清印刷より「東亜の光」口絵を送来る、○三越より来状、○書状を日清印刷に送る、○菊地龍道、東亜協会々員となる、○大日本雄弁会より「教育道話」を送来る、○夜、本居宣長

の「玉くしげ」を読む、

廿七日、午前、曇天、藤田定市来る、○「中学修身」一百部の奥附を弘道館に付与す、○金子堅太郎より「黒田如水伝」を送来る、○鯉節と鶴子餅とを山中隣之助、山田暘朔、齋藤省三及び濱本信一に送る、○勉強、○落花繚乱、○「中学漢文」三百部の奥附を光風館に付与す、○午后、田邊禎夫来る、○講義に大学に赴く、○團琢磨女壽美子結婚の披露に帝国ホテルに赴く、黒田子爵、末松謙澄、石黒五十二、寺尾亨、全秀子、小松弘隆、金子堅太郎、塩澤昌貞等と会見す、○夜、九時半頃帰宅、

廿八日、午前、半晴、富山房員某及び鈴木弘、白井成允、渡邊忠吾、大橋秀治来る、○「民数紀略」を読む、○島本愛之助来る、○午后、「民数紀略」を読む、○速記を訂正す、○縫子、買物に外出す、○「敬字詩集」を読む、○夜、速記を訂正す、○此日、国書刊行会より「鼠璞十種」を送来る、○文部省より書類を送来る、

廿九日、午前、晴天、速記を訂正す、○「実業修身」一百部の奥附を文学社に付与す、○書経の「畢命篇」及び「敬字詩集」を読む、○節句の贈物を井上成美宅に送る、○安井小太郎来る、○午后、女子高等師範の速記を訂正し了る、○書経の「君牙」を読む、○原稿を中川謙二郎に送る、○婦人問題研究会に中央亭に赴く、成瀬仁藏、富士川游、津田梅子、谷津直秀等と会見す、○夜、帰途志賀重昂に車中に逢ふ、○三枝光太郎より来状、○此日、植木屋来る、○文科大学より卒業論文

二を送来る、

三十日、午前、曇天、日本魂社より来状、○書状を三枝光太郎及び桑木巖翼に送る、○高野敬録来る、○書状を小柳司氣太及び日本弘道会に送る、○岩崎文次より来状、○「民数紀略」を読む、○午后、雨天、吉田賢龍来る、○桑木巖翼来る、○勉強、○「東亜の光」(第十一の五)成る、○夜、「陽明哲学」一百部の奥附を富山房に付与す、○勉強、○島本愛之助より来状、

五月

一日、午前、晴天、東亜協会より小包を送来る、○不在中森良三郎来る、○明治神宮奉賛会寄附金として金二二、九一〇を文科大学事務室に納む、○日本大蔵経を送来る、○小中村清名浮世草子巻の七を携来る、○文科大学より「大日本史料」を送来る、○講義に大学に赴く、○午后、岩井勇藏、高田甚四郎、竹本長吉来る、○「吾国今後の教育に就て」教育の實際に出づ、○天曇りて風あり、○吉田雪子来る、○「民数紀略」を読む、○竹内康二より来状、○学生の卒業論文を読む、○夜、学生の論文を読む、○「陽明学」を読む、○此日、千賀宅より小魚を送来る、

二日、午前、曇天、洛陽堂より「生物学と哲学との境」を送来る、○小柳司氣太より来状、○浅野源吾来る、○菊池武幹、杉浦初太郎より来状、○学生の論文を読む、○深田康算より来状、○縫子、千賀貞子に書状を送る、○書状を山崎亀太郎及び丸善に送る、○午后、学生の論文を読む、○「女子修身」

二百部の奥附を金港堂に付与す、○女中ゆふを東海銀行に遣はす、○書状を重田定一に送る、○運動に巢鴨方面に赴く、○大野太衛より来状、○「東亜の光」五月号を宣光に送る、○夜、東京堂より「世界年鑑」を送来る、○「大日本仏教全書」(四月分)来る、○学生の論文を読む、

三日、午前、晴天、学習院に赴き、尋いで女学部に来る、○不在中日置健太郎来る、○文部省より来状、○女中ゆふを文部省に遣はす、○秋月左都夫と学習院に会見す、○午后、九鬼隆一より印刷物を送来る、○浅野源吾より「国家の理想と青年」を送来る、○女中ゆふを三井銀行に遣はす、○金一五、○〇を宣光に送る、○丸善より「統計年鑑」を送来る、○柏原文太郎妻、鶏卵を携来る、○夜、花田浩太、伊藤吉之助来る、○学生の論文を読む、

四日、午前、晴天、在倫敦の補永茂助より印刷物数種を送来る、○日本魂社より来状、○浅野源吾来る、○坂崎担来る、○勉強、○吉田修夫より来状、○女中ゆふを遣はし、金四八、四五〇を柏原文太郎宅に送る、○午后、講義に大学に赴く、○教科書会に文部省に赴^ス、○雷雨、○齋藤勇より「シェイクスピア」を送来る、○夜、山崎亀太郎、重田定一及び学習院教務課より来状、○此日、阿部維巖より茶壺缶を送来る、

五日、午前、晴天、貝原謙、阿部維巖及び文科大学、日本弘道会、冲楨介記念図書館より来状、○島本愛之助、水谷次郎、猪股正巳、武藤虎太来る、○「女子修身」一百部の奥附を金港堂に付与す、○縫子を三井銀行に遣す、○竹内康二、写物

を携来る、○「青年と読書」青年団に出づ、○午后、日本弘道会より来状、○教科書会に文部省に赴く、○鶴澤總明より「椿湫論集」を送来る、○東亜協会より来状、○「国民道德概論」九十七部の奥附を三省堂に付与す、○在倫敦の補永茂助より The Journal of Education を送来る、○夜、書状を日本弘道会に送る、○東亜協会大講演会案内状九通を發送す、○帝国学士院、東洋大学等より来状、○書状を帝国学士院および鹿児島高等農林学校に送る、○教育實際社より御礼を送来る、

六日、午前、晴天、毛利元昭、新渡戸稲造及び婦一協会より来状、○河野鯨雄の計報来る、○書状を河野鬼六郎、鶴澤總明、山崎亀太郎、阿部維巖に送る、○「人格と修養」三百部の奥附を広文堂に付与す、○午后、有風、製本屋来る、○書状を貝原謙、冲莊藏、土田誠一及び京都哲学会に送る、○吉田熊次より写真を送来る、○「社会と道德」を冲莊藏に送る、○小林正策より来状、○勉強、○Höfding, Geschichte der neueren Philosophie を読む、○夜、雑誌類を読む、

七日、午前、雨天、征矢野見雄来る、○取調、○午后、東亜協会第十九回講演大会を法科大学第三十二番教室に開く、「時局の与ふる大教訓」を演説す、黑板勝美、片山國嘉及び長岡半太郎亦各々演説す、聴衆約三百五十人、○夜、東亜協会懇親会を山上御殿に開く、来会者二十九人、吉田熊次の講演あり、○三枝光太郎、東敬治、齋藤勇より来状、

八日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○宗教研究会に入会す、

○姉崎正治より Buddhist Art を送来る、○土田誠一、岩井勇藏来る、○午后、珍書同好会より「浮世花鳥風月」及び「平家剣巻」を送来る、○毎夕新聞社員某来る、乃ち談話を筆記せしむ、○四宮兼之、藤田季莊来る、○猪股正己来る、乃ち談話を筆記せしむ、○B.H. Chamberlain, The Invention of a New Religion 及び Sir Oliver Lodge, Modern Problems を丸善より送来る、○夜、高野敬録来る、乃ち談話を筆記せしむ、○内田周平及び文科大学より来状、

九日、午前、晴天、近思録の原稿を訂正す、○鈴木寛より来状、○「使徒行伝」を読む、○猪股正己より原稿を送来る、○午后、原稿を日本魂社の後藤武夫に送る、○「民数紀略」を読む、○植木屋来りて庭園に遊動円木を造る、○書状を東敬治に送る、○学生の論文を読む、○山崎亀太郎及び其他より来状、○縫子及び雪子と共に偕楽園に赴く、齋藤基次郎、齋藤庸一郎と共に来る、○帰途日比谷公園に遊ぶ、○高田甚四郎及び高野敬録より各々原稿を送来る、

十日、午前、晴天、東亜堂より「シヨウペンハウエルの研究」を送来る、○文部省より来状、○学習院に赴く、○筆記を訂正す、○書状を日本弘道会に送る、○島本愛之助来る、○山上御殿に赴く、○午后、教授会に出づ、○文科大学より書状と論文とを送来る、○不在中富山房員来りて近思録原稿を受取り去る、○筆記を訂正す、○原稿を中央公論社に送る、○松尾圓治より来状、○毎夕新聞社の筆記を訂正す、○夜、筆記を訂正す、

十一日、午前、晴天、阿部維巖より来状、○竹内康二、写物を携来る、○勉強、○「兵術要訓」を読む、○午后、「国史眼」を読む、○講義に大学に赴く、○新渡戸宅に赴き、Dr. William Adams Brown と会見す、後藤新平と談話す、○遠藤隆吉より「日本国粹全書」(十四)を、文明協会より「教育と社会」を送来る、○夜、野田義夫来る、○学生の論文を読む、

十二日、午前、晴天、独逸公報に云く、開戦以来の独逸軍隊の総損害は戦死六六四、五五二、病死四一、三二五、俘虜一三七、七九八、行方不明一、〇一七、〇九四、重傷三八五、五一五、負傷二五四、六二七、軽傷一、〇二三、二二二、負傷者にして尚ほ軍隊にある者一七、九五六、総損害二、八二二、〇七八、但し此内には海軍及び植民地兵を含まず、○花田伸之助、征矢野晃雄、中村正修養子及び小中村栄子来る、○「敬字詩集」を中村氏に返す、○学生の論文を読む、○午后、教科用図書調査委員会に文部省に赴く、○学生の論文を読む、○夜、帝國学士院に赴く、○不在中長谷川福平来る、

十三日、午前、晴天、宣光及び井川尚等より来状、○山口察常より原稿を送来る、○菓子千賀鶴太郎宅に送る、○豊田臻来る、○深作安文、島本愛之助来る、乃ち幹部会を開く、○午后、有終会に水交社に赴き、「神勅と国体」を講演す、○文部省より来状、○朝永三十郎より来状、○書状を宣光に送る、○日之出生命より来状、○夜、日本弘道会に国学院に赴き、「歐洲の大戦と国民道德」を演説す、聴衆三百名、○武

藤虎太より来状、○吉田壽三郎の計報来る、十四日、午前、晴天、兒玉實徳、奥澤福太郎及び其他より来状、○境野哲より「仏教史論」を送来る、○辻本卯藏、尾原亮太郎、一ノ瀬喜勇来る、○学生の論文を読む、○「神社者国家之宗祀也」を送来る、○午后、勉強、○大倉書店より使者来る、○夜、勉強、○吉田雪子来る、

十五日、午前、講義に大学に赴く、○「民教紀略」を読む、○午后、岩井勇藏、武藤儀亮来る、○文科大学及び中島利一郎より来状、○書状を武藤虎太及び中島利一郎に送る、○学生の論文を読む、○夜、引続き学生の論文を読む、○文部省より使者来る、○此頃、冲図書館より来状、

十六日、午前、晴天、徳川達孝及び徳川頼倫より来状、○学生の論文を読む、○林甕臣来る、有故不遇、○午后、引続き、学生の論文を読む、○武谷水城及び遠藤隆吉より来状、○野田義夫来る、○東亜協会より来状、○夜、書状を徳川頼倫に送る、○学生の論文を読む、○書状を遠藤隆吉に送る、

十七日、午前、曇天、学習院に赴く、○女学部に到る、○午后、雨天、教授会に山上御殿に赴く、○不在中文科大学の使者来る、乃ち之に論文二篇を付与す、○文科大学より論文一篇を送来る、○中島力造より「新著梗概」(第十二)を受取る、○夜、宮本和吉来る、○「武士道叢書」を読む、○文部省より来状、

十八日、午前、雨天、小宮山源太郎より来状、○大連満鉄のドクトル上田恭輔より「生殖器官崇拜教の話」を送来る、○金

二七、〇〇を小宮山源太郎に沼津駿東病院に送る、残額金一五〇、〇〇は来る七月二日に送るべきものなり、〇勉強、〇坂本謹吾、有故不遇、〇「武士道叢書」を読む、〇小石川区教育会より来状、〇深作安文、「倫理と国民道德」を携来る、〇午后、講義に大学に赴く、〇「生殖器崇拜教の話」を読む、〇夜、荒浪市平来る、乃ち談話を速記せしむ、〇「生殖器崇拜教の話」を読む、

十九日、午前、曇天、小宮山源太郎及び帝国学士院より来状、〇島本愛之助、鈴木弘、武藤儀亮、瀧精一、為藤五郎、小中村清名及び六盟館員来る、〇午后、書状を上田恭輔及び武藤虎太に送る、〇宗教大学より来状、〇小山柄繪来る、〇「日本経済叢書」(第廿四)を送来る、〇夜、「大戦争の与ふる教訓」皇道に出づ、〇書状を富士川游に送る、〇学生の論文を読む、〇此日、製本屋来る、

二十日、午前、曇天、瀧精一より印刷物を送来る、〇山内計作より来状、〇柏原文太郎宅より野菜類を送来る、〇「中学漢文」三百部の奥附を送来る、〇学生の論文を読む、〇午后、雨天、学生の論文を読む、〇齋藤庸一郎、菓子箱を携来る、〇書状を瀧精一に送る、〇池辺義象より来状、〇夜、小宮源太郎及び瀧武元次より来状、

廿一日、午前、曇天、吉田豊吉及び金原徳子より来状、〇亀井忠一、全寅雄来る、〇竹内康二より来状、〇日本弘道会の招待に華族会館に赴く、井上友一、鹿子木小五郎、清野長太郎、棚橋絢子、三輪田眞佐子、嘉悦孝子、関野貞等と会見す、〇

「列聖全集」(二十)を送来る、〇午后、四時頃帰宅、〇縫子、吉田夫妻と共に帝劇に赴く、〇書状を島本愛之助及び竹内康二に送る、〇帝国学士院及び水道橋税務署より来状、〇「東行先生遺文」を送来る、〇夜、勉強、

廿二日、午前、曇天、富士川游より来状、〇朝永三十郎より「独逸思想と其背景」を送来る、〇講義に大学に赴く、〇「日本大藏経」を送来る、〇「独逸軍国主義」を送来る、〇森良三郎来る、〇税金二八、八八を森良三郎に付与す、〇小宮山源太郎より電報来る、〇「大正新女大学」婦人公論に出づ、〇午后、女中ゆふを東海銀行に遣はす、〇岩井勇藏、竹内康二来る、〇書状を水道橋税務所及び小宮山源太郎に送る、〇弘道会員石川小一郎、御礼の為に来る、〇文科大学より来状、〇藤田季莊来る、〇B.H. Chamberlain, The Invention of a New Religionを読む、〇夜、教育新聞社より来状、〇伊藤吉之助来る、〇Chamberlainを読来る、〇速記を訂正す、

廿三日、午前、曇天、東亜協会より来状、〇「神社は宗教的機関にあらざるか」古典講義録に出づ、〇天霽る、〇高田甚四郎、山崎惟治来る、〇東京音楽学校より招待状来る、〇速記を訂正す、〇書状を吉田豊吉に送る、〇午后、晴天、床屋に赴く、〇不在中平塚唯鳩来る、乃ち之に原稿を付与す、〇望月写真館に赴いて撮影す、〇桑木嚴翼来る、〇夜、「教界春秋」を草す、

廿四日、午前、曇天、学習院に赴き、尋いで女学部に来る、〇午后、教授会に山上御殿に出づ、〇不在中本多日生来る、〇

田中康邦、吉田豊吉より来状、○「孔子晩年の思想」孔子祭典会々報に出づ、○三省堂より「国民道德概論」の原稿を送来る、○夜、土田誠一來る、○雨、○「教界春秋」を草す、

廿五日、午前、曇天、有風、佐藤俊治来る、有故不遇、○「教界春秋」を速達にて日清印刷に送る、○勉強、○午后、講義に大学に赴く、○土田誠一、教員控室に來談す、○夜、「育徳園記」を読む、○此日、姉崎益子、男児を生む、

廿六日、午前、晴天、文科大学より来状、○小杉熙、田中義能、島本愛之助来る、○午后、教科書会に文部省に赴く、○欧洲大戰の写真を修文館に観る、○学生の論文を読む、○小宮山源太郎より来状、○書状を小宮山源太郎に送る、○夜、書状を吉田熊次に送る、○学生の論文を読む、○書状を文科大学に送る、○哲学会及び経済之日本社より来状、○此日、文科大学の使者来る、

廿七日、午前、晴天、辻清吉より来状、○国書刊行会より「田野村竹田全集」を送来る、○水道使用料金一〇、二四を郵便局に納む、○学生の論文を読む、○高知県第一中学校長兒玉実徳、贈物を携来る、○中央公論社より御札を送来る、○哲学会より来状、○午后、雨天、日清印刷より「東亜の光」口絵を送来る、○「東亜の光」口絵解題を日清印刷の使者に付与す、○学生の論文を読む、○吉田雪子来る、○文科大学及び島本愛之助より来状、○書状を丸善に送る、○夜、書状を島本愛之助に送る、○Wundt, Einleitung in die Philosophieを読む、○文部省より印刷物を送来る、

廿八日、午前、晴天、亀井寅雄、豊田臻、伊藤吉之助来る、○修養団上田支部より来状、○深作安文来る、○午后、哲学会春季大会に大学に赴く、松本亦太郎及び常盤大定の講演あり、聴衆約三百人、○夜、評議員会を山上御殿に開き、尋いで会食す、食し了りて会頭及び評議員を選挙す、○島本愛之助より速記を送来る、○押田三郎より来状、○岩波書店より「哲学概論」を送来る、○此日、哲学会々長となる、

廿九日、午前、曇天、講義に大学に赴く、○不在中竹内康二、写物を携来る、○午后、晴天、臨時教授会に山上御殿に赴く、○不在中佐川市助来る、○丸善より Hans Driesch, The Problem of Individuality を送来る、○押田清子、押田翼宅に赴く、○藤田季莊、須貝止、井上吉次郎来る、○花田仲之助及び他より来状、○書状を花田仲之助に送る、○学生の論文を読む、○須貝止、東亜協会々員となる、○此日、白川の至道会に赴くことを約す、

三十日、午前、曇天、小杉熙及び上田恭輔等より来状、○「欧洲の大戦と国民道德」教育学術界に、「戦争の教訓」青年雑誌に出づ、○廓清会より廓清第五巻を送来る、○学生の論文を読む、○岩井勇藏来る、○武藤虎太より来状、○午后、学生の論文を読む、○望月写真館より写真を送来る、○ Lodge, Modern Problems 及び Chamberlain, The Invention of a New Religion を購入す、○夜、心理学会に山上御殿に赴く、○「東亜の光」(十一の六) 成る、○野田義夫及び高田甚四郎より来状、○此日、書状を武藤虎太に送る、

卅一日、午前、晴天、学習院に赴く、○武藤虎太及び高楠順次郎等より来状、○Famous Paintings を閲覧す、○午后、加藤駒二来る、○書状を武藤虎太及び加藤駒二に送る、○運動に巢鴨方面に赴く、○夜、雷雨、電、○書状を文科大学に送る、○此日、英独大海戦、

六月

一日、午前、晴天、哲学科の学生の口述試験を大学に行ふ、○不在中森良三郎来る、○金港堂より印税を送来る、○「世界人類の将来」経済の日本に出づ、○午后、支那哲学の口述試験を大学に行ふ、○「日本民族精神の尊重」日本魂に出づ、○文科大学より来状、○夜、書状を島本愛之助及び武藤虎太に送る、○「朱子哲学」五拾部の奥附を富山房に付与す、○島本愛之助来る、○「東亜の光」発売禁止、

二日、午前、晴天、島本愛之助、土田誠一、小中村清名、北原峯子、征矢野晃雄、本田賢三、鈴木弘来る、○小谷重、藤田定市より来状、○文科大学の使者「山東省ニ於ケル漢代墳墓表飾附図」及び「工科大学紀要」(八の一)を送来る、○金二〇〇〇の為換入の書状を宣光に送る、○午后、岩井勇藏来る、○府税市税金一六、四八を郵便局に納む、○勉強、○浦谷ふみ来る、○夜、文科大学及び森川町郵便局より来状、○九時上野出発、

三日、午前、晴天、五、○三仙台市着、武藤虎太、杉谷泰山来迎す、直に針久本店に赴く、来訪者甚だ多し、○東華高等女学校に赴き、其学友の為に演説す、聴衆約六百人、○午后、

釋典に臨み、尋いで高等女学校に到り、同窓会の為に演説す、聴衆約六百人、○夜、高等学校に赴き、衆と共に晚餐をなし、了りて孔子会に於て「儒教と今後の道徳」を演説す、聴衆約八百人、○此日、毛利八良平来る、

四日、午前、晴天、来訪者甚だ多し。○午后、実業経済会に赴き、「道徳と経済との関係」を演説す、聴衆約六百人、○夜、仙台市有志者の歓迎会に西洋料理店に赴く、来会者約五十人、○武藤虎太、杉谷泰山、早川智寛等御礼の為に針久本店に来る、○此日、書状を留守宅及び有終会に送る、○御殿場より山独活を送来る、

五日、午前、晴天、武藤虎太、杉谷泰山、早川智寛、河津暹、矢作栄藏等と塩釜に赴き、共に塩釜神社に参拝し、尋いで小蒸汽に駕して大高森に登り、更に転じて松島に到り、白鷗楼に昼餐を喫す、○午后、瑞巖寺を觀、又觀瀾亭を訪ひ、再び小蒸汽に駕し、塩釜に到り、塩釜より仙台市針久本店に入り、晚餐を喫す、○夜、六、一五出発来送者約二十人、○微雨、○此日、岩井勇藏来る、○英国キチナー將軍溺死す、

六日、午前、曇天、五、四○上野着、○六、三○頃帰宅、○仙台にて会見せし人々は、武藤虎太、杉谷泰山、早川智寛、瀧川龜太郎、佐々木舜永、大塚惟精(警察部長)、登張信一郎、玉蟲一郎一、土井林吉、小川竹男、平野彦次郎(陸軍教授)、大澤弥治(県立高等女学校長)、虎石惠實、瀧川長教(地方裁判所長)、古川義天、井上可基、山田揆一(市長)、宗像逸郎、岩付環、濱田廉、橋本文壽、新保德壽、鱸重康(検事)、

柿沼竹雄（内務部長）、池田秀雄（理事官）、三家重三郎（検事正）、濱田恒之助（知事）、清水一郎（控訴院長）、横田宗太郎（陸軍少将）、樋泉慶次郎（師範学校長）等、○松井錦橋来る、○午后、井上波野来談す、○為藤五郎来る、乃ち談話を筆記せしむ、○袁世凱逝く、享年五十九、○運動に大塚方面に出づ、○夜、日記を録す、○「歐洲の大戦と国民道德」弘道に出づ、○此日、有終會員、御礼の為に茶器を携来る、○仙台市の贈物は埋れ木細工巻煙草入壺箇（土井林吉）、硯箱式箇（県立高等女学校及び東華高等女学校）、○仙台滞在中島本愛之助、大野太衛、小笠原實成、関口福松等より来状、七日、午前、半晴、学習院に赴き、尋いで女学部に到る、○吉田熊次、教授となる、○小林文七より来状、○黎元洪、仮大總統となる、○午后、教授会に山上御殿に赴く、○竹内康二来る、乃ち之に写物を付与す、○警醒社より Who's Who in Japan 1916 を送来る、○夜、哲学会委員会に山上御殿に赴く、○此日、菊池純一郎、杉谷泰山、豊田臻及び婦一協会より来状、八日、午前、晴天、岩井勇藏、野口日主来る、○珍書同好会より「和漢兼作集」を、帝国大学より「大日本古文書」を送来る、○武藤虎太、杉浦初太郎、和田憲太郎、清水文弥、蓮沼門三より来状、○書状を帝国学士院及び島本愛之助に送る、○午后、曇天、「民数紀略」を読了る、○運動に上野方面に出づ、○夜、速記を訂正す、

九日、午前、晴天、文科大学より来状、○花見喜代次、島本愛之助来る、○タゴール歓迎事務所及び晴彦生より来状、○女

中ゆふを文科大学に遣はす、○速記を訂正す、○午后、栗野愼一郎母の告別式に赤坂檜町に赴く、○「道德と経済」及び「儒教と今後の道德」河北新報に出づ、○書状を文科大学に送る、○速記を訂正す、○夜、福原鎌二郎及び野口日主より来状、○書状を福原鎌二郎及び野口日主に送る、○吉田熊次夫妻来る、○原稿を訂正す、○書状を帝国学士院に送る、○哲学会及び栗野子爵家より来状、「頁下部に「男女四人を分婉」の新聞記事切抜貼付」

十日、午前、晴天、島本愛之助及び安井小太郎より来状、○「伊洛淵源録」及び Sādhana : The Realisation of Life を読む、○武藤虎太より来状、○午后、時局研究会に山上御殿に趣く、江木千之、水野鍊太郎、海老名彈正及び一ノ戸大將等約三十余人来る、○夜、引続き、研究をなす、○北原種忠より来状、○為藤五郎より筆記を送来る、

十一日、午前、晴天、征矢野晃雄、岩橋遵成、坪田讓治、片岡弥吉、桑田芳藏来る、○「道德と経済」及び「儒教と今後の道德」仙台日々新聞に出づ、○浦谷熊吉、弘道館の印税を携来る、○神奈川県三沢豊顕寺に赴く、○午后、豊顕寺本堂に於て「日本の使命と蓮宗」を演述す、聴衆約三百人、大迫尚道、佐藤鉄太郎、阿部日正、藤平日学、瀧沢又市、木村繁四郎、本多日生等と会見す、○Rabindranath Tagore の講演 (The Message of India to Japan) を聴く、○不在中山内素行、御礼と「古今義人録」を携来る、○夜、加藤玄智より来状、○The Message of India to Japan を読む、

十二日、午前、晴天、大手總彦の計報来る、○坂本要道、北原峯子来る、○哲学概論の修了試験を行ふ、○縫子を三井銀行に遣はす、○午后、岩井勇藏、武藤儀亮来る、○土肥竹次郎より来状、○書状を土肥竹次郎及び武藤虎太に送る、○文科大学より試験答案を送来る、○Tagore, The Message of India to Japanを読了す、○書状を杉谷泰山に送る、○山崎亀太郎より来状、○夜、帝国学士院に赴く、○竹内康二、写物を携来る、○淺見綱齋の「氏族弁証」を読む、

十三日、午前、晴天、常盤大定より来状、○「儒教は果して功利主義なるか」丁酉倫理に出づ、○深作安文、島本愛之助来る、乃ち幹部会を開く、○午后、小山鞆繪来る、○帰一協会に澁澤邸に赴く、プリンス博士の講演あり、秋月左都夫、黒岩周六、原田助、高木壬太郎、綱島佳吉等と会见す、○夜、帝国学士院及び文科大学々友会より来状、

十四日、午前、晴天、学習院に赴き、尋いで女学部に至る、○午后、教授会に山上御殿に赴く、○不在中甫守謹吾来る、○遠藤隆吉より「日本国粹全書」第二輯を送来る、○寛克彦より「御即位礼勅語と国民の覚悟」を、中島力造より「現今之自由意思問題」を贈る、○「国民道德概論」参百部の奥附を三省堂に付与す、○帝国学士院及び島本愛之助より来状、○夜、雨天、学生を答案を読む、○書状を島本愛之助に送る、○文科大学及び日本弘道会より来状、

十五日、午前、雨天、菊池武幹より袱紗を送来る、○有富虎之助より来状、○文科大学より使者来る、乃ち之に試験問題を

付与す、○学生を答案を読む、○岩井勇藏、伊藤吉之助来る、○女中ゆふを東海銀行に遣はす、○午后、晴天、甫守謹吾来る、○東洋哲学史の修了試験を行ふ、○英文学研究室より来状、○岩井勇藏来る、○服部宇之吉の帰朝を東京駅に迎ふ、○「模範英和辞典」を増補す、○中山孝一より「神人論」を送来る、○書状を杉山直喜に送る、○文部省より書類来る、○夜、学生を答案を読む、○有風、

十六日、午前、晴天、有風、小宮山源太郎より来状、○島本愛之助、武藤儀亮、大橋秀治、中村久四郎来る、○坪田讓治来る、乃ち談話を筆記せしむ、○学生を答案を読む、○午后、雨天、引続き学生を答案を読む、○書状を土井林吉、林泰輔、及び三省堂に送る、○再びTagore, The Message of India to Japanを読む、○夜、亀井寅吉来る、○帝国学士院より来状、○杉山直喜来る、乃ち談話を速記せしむ、〔頁下部に「倫敦特電…独軍最近の損害数（六月十一日午後発）」の新聞記事切抜貼付〕

十七日、午前、晴天、有風、澁澤男爵、島本愛之助及び帝国学士院より来状、○学生を答案を読む、○為藤五郎の筆記を訂正す、○縫子、三越に赴く、○女中ゆふを学習院に遣はす、○為藤五郎来る、乃ち之に原稿を付与す、○午后、林泰輔来る、○学生を答案を読む、○金港堂より報告来る、○宮内省及び文部省より来状、○田邊春枝より縫子に來状、○書状を宮内省及び澁澤事務所に送る、○伊藤秀吉来る、○夜、学生を答案を読む、

十八日、午前、晴天、杉山直喜より速記を送来る、○山田修藏、阿部東作、大倉書店員来る、○晩成処より印税を送来る、○坂本謹吾、小谷重、佐々木靈譽、武藤儀亮来る、○木村金之助、深作安文、鈴木暢幸より来状、○速記を訂正す、○午后、雨天、速記を訂正す、○夜、芳賀矢一の為に送別会を山上御殿に赴く、○不在中浦霧末松来る、○此日書状を有富虎之助に送る、

十九日、午前、晴天、宮本和吉来る、○学生の答案を読む、○女中ゆふを東海銀行に遣はす、○晝屋来る、○「日本大藏経」を送来る、○午后、岩井勇藏、藤岡藏六、浦霧末吉、岡成志来る、○有富虎之助来る、乃ち談話を筆記せしむ、○文科大
学より来状、○服部宇之吉の歓迎会に飛鳥山澁澤邸に赴く、○夜、十時半頃帰宅、○不在中製本屋及び常盤大定来る、○此日、中村義見の計報来る、

二十日、午前、晴天、文明協会、大日本雄弁会及び三澤利治より来状、○新村喜一郎来る、○書状を三澤利治に送る、○学生
の答案を読む、○「学生宝鑑」壱百部の奥附を大倉書店に付与す、○書状を大手楯磨に送る、○岩井勇藏来る、○晝屋来る、○天曇る、○午后、学生
の答案を読む、○江見清風来る、○夜、学生
の答案を読む、○此日、縫子をして弔詞を中村政志に送らしむ、○田中芳男逝く、享年七十九、

廿一日、午前、雨天、大橋秀治、北原種忠及び藤崎天外より来状、○学習院に赴く、○学生
の答案を読む、○午后、教授会に山上御殿に赴く、○帝国学士院及び其他より来状、○女学

部より御礼を送来る、○夜、雨、学生
の論文を読む、

廿二日、午前、曇天、書状を市村瓚次郎及び宇野哲人に送る、○学生
の答案を読む、○女中ゆふを三井銀行に送る、○阿部文雄来る、○午后、学生
の答案を読む、○帝国学士院の委員会に山上御殿に赴く、○博文館より創立二十九周年記念として末広二を送来る、○夜、文成社より来状、○学生
の答案を読む、○富山房より印税を送来る、○男爵田中芳男の計報来る、

廿三日、午前、晴天、武藤儀亮及び E.A. Gordon より来状、○学生
の答案を読む、○内ヶ寄京三郎、島本愛之助、加藤俊一、征矢野晃雄来る、○女中ゆふを大学に遣はす、○午后、学生
の答案を読む、○日清より「東亜の光」口絵を送来る、○尾形惣三郎より来状、○夜、伊藤吉之助来る、○北尾日大より「日蓮聖人の宗教」を送来る、○学生
の答案を読む、

廿四日、午前、曇天、学生
の答案を読む、○タゴール歓迎事務所より来状、○「起てよ、青年」青年雑誌に出づ、○長岡半太郎より「山縣大貳遺著」を返来る、○文科大学より使者来る、乃ち之に試験成績を付与す、○日本学会案内状九通を発送す、○「東亜の光」口絵解題を日清印刷に送る、○書状を島本愛之助に送る、○午后、晴天、帝国学士院より来状、○小山良子、菓子壺箱を携来る、○書状を中島徳藏に送る、○夜、学友会に植物園に赴く、○帝国学士院より来状、○上野陽一より原稿を送来る、○「申命記」を読む、

廿五日、午前、曇天、書状を田中美津男及び小宮山源太郎に送る、○「申命記」を読む、○今福忍、吉田雪子来る、○大類

伸、「西洋時代史観」を携来る、○午后、「教界春秋」を草す、○中島愼一來る、○夜、日本学会に山上御殿に赴く、市村瓊次郎及び深作安文の講演あり、○雨、○村上俊江より印刷物を送来る、

廿六日、午前、雨天、島本愛之助より来状、○「教界春秋」を草す、○午后、岩井勇藏来る、○「教界春秋」を岩井勇藏に付与す、○木村龍寛、境野哲の紹介状を携来る、○荒浪市平来る、乃ち談話を筆記せしむ、○江見清風及び有終会より来状、○「申命記」を読む、○北原種忠来る、○夜、加藤駒二より来状、○書状を山口察常に送る、○「申命記」を読む、○佐藤範雄より来状、○原稿を上野陽一に送る、

廿七日、午前、雨天、「申命記」を読む、○書状を北原種忠に送る、○深作安文来る、○監獄協会の速記を訂正す、○虎石恵實より来状、○法華経を読む、○書状を浅倉屋に送る、○團琢磨より袱紗を送来る、○午后、速記を訂正す、○文科大学より来状、○縫子、孫勇雄を拉して吉田宅に赴く、○高橋作衛より「大正詩文」を送来る、○夜、哲学会に山上御殿に赴く、○計見東山より来状、

廿八日、午前、曇天、学習院に赴き、尋いで女学部に到る、○午后、教授会に山上御殿に赴く、○六盟館より印税を送来る、○「最新科学」及び「江戸時代文芸資料」を送来る、○宣光より電報来る、○縫子、吉田宅に赴く、○竹本長吉来る、○在英国補永茂助より印刷物を送来る、○「開成学校に関する談話」大阪新報に出づ、○夜、「申命記」を読む、○此日、

腸胃を憂ふ、○不在中齋藤庸一郎来る、

廿九日、午前、半晴、中村政志より来状、○金三五、○○を電信為換にて宣光に送る、○中島徳藏より速記を送来る、○速記を訂正す、○押田三郎母来る、○小雨、○「申命記」を読む、○午后、速記を訂正す、○加藤駒二、大槻茂雄、三枝光太郎より来状、○「開成学校に関する談話」大阪新報に出づ、○齋藤庸一郎来る、○光風館より印税を送来る、○夜、速記を訂正す、

三十日、午前、晴天、原達平、藤岡藏六、征矢野晃雄、島本愛之助、木村龍寛来る、○木村龍寛、蘇武利三郎、東亜協会々員となる、○書状を山口察常、竹内康二に送る、○小澤錦十郎より来状、○「申命記」を読む、○午后、「申命記」を読む、○原稿を中島徳藏の使者に付与す、○「国民道徳の発露」新修養に出づ、○「開成学校に関する談話」大阪新報に出づ、○速記を訂正す、○宣光鹿兒島より帰来る、○運動に大塚方面に赴く、○井上成美来る、○夜、成美と共に晚餐をなす、○文科大学より来状、○「東亜の光」(十一の七)成る、○速記を訂正す、○岡上梁より電報来る、

(むらかみ こずえ 東京大学文書館)
(もりもと さちこ 東京大学文書館)